

洗  
脳

ア  
プ

リ  
オ  
ン  
ラ  
イ  
ン



本当クソゲーだよな！  
この『人生』ってゲームはよ！

何が「ゲームばかりしてないで働きなさい」だ  
親が年金貰ってそれで暮らせてるんだから  
別に俺が働かなくてもいいだろうが

それを毎日毎日グチグチ言うもんだから  
キレてブン殴ったとしても怒らせた方が悪いよな？

それを「勘当だ」なんて言っただけで家を追い出しやがって……  
親なら子供の面倒見るのが当然だろうが！

ちっ……「手切れ金だ」なんて言っただけで渡された金も  
ネカフェ代とゲーム課金で使っちゃってもう残ってねえし  
残りは消費者金融で借りてきたこの二十万だけか……

はあ……ネットでなんか美味しい儲け話でもねえかなあ……  
まあ最悪なんか犯罪でも犯して刑務所にでも行けばいつか  
三食出るみたいだし——  
あ、でも刑務所じゃネットも出来ねえか  
まあ刑務所は最後の手段だな

つと、何だこの広告？

『催眠アプリ』？

ははっ！催眠アプリって(笑)

今時こんなのに引っかかる馬鹿はいねえだろ

しかも価格が二十万円って(笑)

はあ：我ながら何考えてるんだか

こんな見え見えの詐欺商品を二十万も出して買っちゃもうだなんて

ま、どつちにしても積みなんだ

一応一度試してみて、終わったらリアルで女でも襲って捕まるとするか  
名前が出たら親への仕返しにもなるだろうしな

さて、アプリの使い方はと――

ゲーム内で――ふむふむ――へえ、それだけでいいのか

使用するターゲットはもう決まっている

美人でしかも金持ちの娘らしいあの女

俺もネットに上がってたゲーム内のきわどい盗撮写真や

コラ画像で何度もズリネタにしている

もしこのアプリが本物ならアイツを俺の手であんな目やこんな目に――

くくっ：想像しただけでチン○がガチガチに勃起しちゃった

アイツがあるとあるゲームで、あるレアアイテムを探してるのは既に調べてある

大方カレシって噂のキリトてヤツにでもやるつもりなんだろうが――

まあそんな事はどうでもいい

勿論そんなレアアイテム持ちちゃいねえが

画像を偽装して持つてるように見せかけて

取引を持ちかけて――

よし！返信が来た！

それじゃ明日、指定した場所で直接会って引き渡す約束をして、と

交換条件は――

「いやあ、本当にその衣装で来てくれるだなんて、嬉しいよアスナちゃん  
やっぱりアスナちゃんといえはその衣装だよね」

「これで満足でしょ！早くレアアイテムを渡して！」  
（くっっ…何この人…いやらしい目でなめ回すように見つめて気持ち悪い…  
早く取引を終わらせてログアウトしたい…！）

「まあそう焦らないで、今渡すからさ。ほら、これを見て」

「は…？何よそれ？スマホみたいなアイテムに見えるけど  
交換する約束だったアイテムとは全然違うじゃない！  
もういい！冷やかしながら帰——」

（今だ！洗脳アプリ起動！）



アプリには既に洗脳の内容を入力してある  
説明書通りならこれでアスナは催眠に掛かったはずだ  
頼むぜ、せめて最後に良い夢を見させてくれよ



「……」

「アスナ…ちゃん…?大丈夫…?」

「……え?どうしたのキリト君、アスナ『ちゃん』だなんて」

「やった!成功だ!まさか本当に催眠アプリが効くだなんて…!」

「アプリには俺をアスナの恋人のキリトだと思わせる催眠を仕込んであったが、その効果はバツチリ発揮されてるみたいで俺をキリトだと思い込んでやがる!」

「いや、何でも無いよアスナ」

「(ということとは他の催眠も効いてるって事だよな?)」

俺はアスナの胸元のプレートに手をかけた



(うおおっ！これが本物の(VRだけど)アスナのおっぱい……！)

周りに人が居ない路地裏とはいえ  
街中でおっぱい丸出しになっているのにアスナは全く動じない  
いや、催眠の効果で胸を出していることを「認識出来ていない」

「アスナ、ちよつとジャンプしてみてくれるかな」

「ん？ことう？」

アスナが軽く飛び跳ねるとそれに釣られて  
大きな胸も上に下にブルンブルンと跳ね回った

(くっ…ダメだ…！我慢出来ねえ…！)

俺はパンツの中で爆発寸前になっていたチン○を露出させ  
アスナの目の前でシゴいた

だがアスナはその事も「認識できず」  
この後デートでどこに行こうかなど  
楽しそうに話し続けていた



「くっ…!!もう…!!イ…イクツ…!!」

「ええっ♪最近美味しいお店が出来たみたいだから早くイキましよう♪」  
「っ…!!」

俺のチン○の先端から熱く粘り気のある白濁液が  
アスナに向かって勢いよく吐き出される

一応胸に向かって出してたつもりだったが  
想像以上の勢いで射精されたようで  
アスナの胸どころか顔や髪にまで  
白濁液がべったりと付着していた

「ん…?何…?なんか濡れたような…雨かしら…?」

アスナは催眠術で自分に何が起こっているのか  
分かっていないようだった

俺はアスナに掛かったザーメンを簡単に拭き取ると  
アスナを手を取り路地裏の、更に奥まった所へ連れて行った





「あっ♥あああ♥  
キリト君だったら♥こんな所で始めちゃうだなんて♥」

「嫌か？アスナ？」

「ううん♥キリト君がしたいならいいよ♥」

俺はリアルではDTだったがゲーム上ではNPCとセックスしたことはあった  
だがアスナの反応やオマン○の具合はそんなモノとは別次元の良さで  
入れて数回ピストンさせただけで俺のチン○の奥からは  
マグマのように熱いモノがこみ上げてきていた

それと同時にもう一つ俺の奥底からこみ上げてきたモノ  
それはこんな可愛くて良い女と付き合っ  
て毎日ヤってる(であろう)  
キリトというヤツに対する激しい嫉妬

俺は一つ良いことを思いつき、催眠の内容を少し変更することにした

まずは暴れられないようにアスナの体の自由を奪うこと  
そしてもう一つは「俺をキリトだと認識する」催眠の解除

つまりアスナは正気に戻った瞬間  
知らない男に犯されてる真っ最中というわけだ

さあ、一体どんな反応を見せてくれるのか楽しみだ



「あんっ♥ああっ♥あ……?ひっ!いやああああっ!  
な…何よこれ!な…なんで…!あなたさっきの…!  
嫌あ!止めでえ!ひいっ!体が動かないっ!  
助けてえっ!キリト君!っ!」

「あー、やっぱり騒いじゃうか  
ほい、おしやべり禁止」

「っ!……!」

(声が…出ない…?ど…どうして…!  
まさかこれも全部この男の仕業…!)

「おっ、大体察したみたいだね、流石はアスナちゃんだ  
まあ催眠アプリの事が分かったからってどうしようも無いんだけど」

俺は再び腰を動かし始める  
アスナは指一本動かさず声も出せないがそれでも必死に抵抗しようとして  
そしてそれが無理だと分かると悔しそうに涙を流し始めた

やっぱり俺はラブラブセックスよりこういう  
強姦系のシチュエーションが好きかもしれない

好きな相手が居る女のマン○に無理矢理チン○をブチ込んで  
絶望させると最高に興奮する

なるべく長く楽しもうと必死に射精を我慢してきたがそれもそろそろ限界だ  
俺の意思とは関係無しに精液がこみ上げてきて  
もうチン〇をピストンさせようがさせまいが射精するのは時間の問題だった

俺の腰使いが一気に激しくなったことから射精の前兆を察し  
必死に射精を止めるよう懇願する表情を向けるアスナ

だがコイツは分かってない  
俺みたいな人間がそんな事で止まるはずがない  
むしろ火に油を捧ぐようなものだ

俺は限界まで我慢して我慢して  
それでもついに物理的な限界が訪れ  
精液が尿道を登ってくるのを感じた瞬間  
今までで最も奥までチン〇を挿入し  
アスナのマン〇の一番奥にザーメンを流し込んでやった



「……あ……っ！」

アスナが何かを叫んでいるようだった  
恐らく「やめて！お腹が破裂しちゃう！」あたりだろうか

まあ無理も無い  
アスナの腹は俺の大量の精液で風船のようにパンパンに膨らんでいる  
勿論普通こんなに精液が出るはずは無いが  
今の俺はチートで射精量を増やして  
その気になれば百リットル以上の射精も可能だ

これ以上射精したら快感で俺の方が壊れてしまう  
と言うところの寸前まで射精して  
俺はようやくアスナのマン○からチン○を抜いた

まだ射精が完全に終わっていなかったのか  
引き抜いたチン○からは噴水のように精液がまき散らされ  
アスナの尻や背中や顔や髪  
あらゆる箇所を大量の白濁液が汚していった



その後

俺は一旦アスナをログアウトさせた

普通ならそれで警察にでも通報されて終わりなんだろうがそこはちゃんと催眠アプリを使って今回の件の記憶は綺麗に消してある

このアプリの凄いところは一度使用すればゲーム内だけでなく現実の体の方にも催眠をかけられるところだ

そう、例えば「明日俺の家に来い」と催眠をかけておけば本人が無意識のうちに俺の元に来させることも――

「そうだアスナ、今日はこれから良いモノを見せてやるよ  
俺が生身の女相手にDTを卒業するところをな  
どうだ？楽しみだろ」

「くっ…！そんなわけ無いでしょ！  
催眠アプリなんて使ってる卑怯者なんだから  
どうせその女性も無理矢理連れてきたんでしょ！」

「いやいや、コイツはちゃんと自分の足で俺の元へ来たんだぜ？  
それにコイツはお前もよく知ってる人間だ」

「え…？」  
（私がよく知ってる人間って……  
まさかシノン…？ それともリズ…？）

「くっ、流石に気になるみたいだな  
それじゃネタバレといくか  
映像を出してやるから見て驚きな」

「なっ…!!コレって…!!私の体じゃない…!!  
あなたはどうやって私の部屋に…!!」

「俺がお前の部屋に?違う違う  
お前が俺の所に来たんだよ  
催眠状態だったから覚えてないだろうけどよ」

「そんな…嘘…」

「安心しな。ちゃんと『暫く旅行にいきます』  
って書き置きさせて置いたから  
しばらく不審がられる事も無いだろうぜ」

「暫くログアウトはさせないが、なあに、心配するな  
栄養補給やシモの世話は俺がやっておいてやる」

「あ…ああ…い…いや…」

「嬉しくって声も出ないか?  
この服も良いセンスだろ  
お前に似合うと思って買って置いたんだ  
着たままでもオマン○出来る優れものさ」





「さあて、そろそろ薬も効いてきた頃だろうしそろそろイクぜ」  
「ひっ！や…止めてええ！ それに薬って…！」

「どんな女でもイキ狂うっていう強力媚薬と  
99%受精させられるっていう薬を

ブレンドした超ヤバイヤツさ  
ほら、まだ何もしてないのに  
乳首が馬鹿みたいに勃起してるだろ？」

「受精っ…！そんな…そんなのダメえ！  
お願いだからせめてゴムは付けて！  
キリト君とだってゴムを付けてるのに！」

「はははっ！生は初めてか！そりゃいい！  
それでこそレイプしがあるってもんだ！  
お前はそこ（VR世界）で生身の自分が  
犯されて受精させられるところを  
指をくわえて見てるんだな！」



「つと、VRじゃ何度もやってるが  
流石に初めて生身の女とヤルとなると緊張するな…  
入れる穴はココで良いんだよな…?」

「いやああっ! 本当に…  
本当に私のオマン〇にチンポを…!!  
止めてええええ!!」

「おお入った入った  
なんだ、思ったより簡単じゃねえか  
薬でオマン〇の中がビチャビチャに  
なっくて入れやすかったぜ」

「それにしても…生マン〇最高かよ!  
こんなに気持ち良いとは思わなかったぜ  
VRやオナホなんて比べものにならねえな  
女のオマン〇ってみんなこうなのか?  
それともコイツのマン〇が特別良いのか…?  
まあ気持ち良けりやなんでもいいや」



「さあ！出さず！受精間違い無しの危険マン○に  
子作り汁をたっぷり注ぎ込んでやる！」

「止めてえええっ！  
妊娠なんて嫌あああつ！  
出しちゃダメえええっ！」

「はっ！口ではそう言ってもマン○は  
『早く出して』ってヒクヒクしてるぜ！  
くっ…！これ以上は我慢出来ねえ…！  
オラっ！自分の体が受精させられる瞬間を  
良く見ておけ…！」



「ひいっ！私のお腹が：あんなに膨らんで：アレが全部精液：うぷっ！！も：もう止めてえ！そんなに出されたら本当に妊娠しちゃう！」

「バーカ、だからさっきから受精させるって言うてるだろまあこれでも受精してると思うが念には念を入れておくか」

「な…何…これ以上何をするつもりなの……」

「折角生身の女をやるんだ射精量を爆発的に増やす薬や面白いオモチャも沢山準備してあるんだよああ、それと折角だから生身が感じた快感をVR中のお前にも感じるようになってやる薬で感度がとんでもないことになってるから吹っ飛ばなよ」

「そんな：！ま：待っ—  
んごおおおっ♥待っ♥ダメえ♥こ…これ♥  
気持ち良すぎて狂っ…♥い：一旦遮断してええっ♥」



「ふう…結局抜かずに  
5…6回も出しちまった  
流石に出し過ぎてフラフラだ…  
さて、VRの方のコイツは  
どうなってるかな？」

「あ…あひっ…♡お薬受精セックスさいこお…♡  
こんな気持ち良いの知ったら戻れなくなっちゃう♡  
あぁっ♡受精してる♡これ絶対受精してる♡  
卵子がキュンキュンして分かるの♡♡  
どうしよお♡私好きでも無い男に催眠レイプされて  
受精しながら何十回もイキまくっちゃったあ♡  
ゴメンねキリトくん♡ごめん…ね…♡」

まさか「あの」アスナと  
しかも生身でやれるだなんて  
ちよつと前まで想像も出来なかったぜ  
本当人生はいつ何が起こるか分からねえな

しかもアスナとのハメ取りの動画をネットで販売したら  
バカ売れしてとんでもない額の金が転がり込んできやがった

これで生活費は勿論、ゲーム課金もしたい放題  
本当催眠アプリ様々だぜ

そういえば催眠状態のアスナから聞いたが  
コイツには他にも可愛い女友達がいるみたいだな

ソイツらにもアスナと同じように  
この催眠アプリを使ってやれば  
ハメ放題で金ももつとジャンジャン入ってきて  
高級車や高級マンションだって……

くっ……くっくっ……！ははっ！  
笑いが止まらないとはこの事だぜ！

俺の名はキリト

俺の：大切な人、アスナと連絡が取れなくなってから三日  
不審に思った俺はアスナの部屋へ行ってみただが

特に荒らされた形跡などは無く

『暫く一人で旅行に出かけます』という書き置きが置いてあった

しかし――

アスナが俺に何も言わず長期の旅行に出かけるとはとても信じられず  
更に連絡すら取れないとい事に何かもの凄く嫌な予感がしていた

俺は俺とアスナの共通の友人であるシノンに

アスナの失踪について何か心当たりが無いか聞いてみる事にした

そう：アスナが：

私の所には特にアスナから連絡は来てないけど  
もし何か情報が入ったらすぐにキリトに連絡するわね

ああ：すまないがよろしく頼む、シノン

気にしないで、アスナは私にとっても大事な友達なんだし  
まあアスナならきつと大丈夫よ

ゲームの中じゃあんなに強いんですもの♪

そう：だな

俺が弱気になってちやダメだよな

励ましてくれてありがとう



「だから気にしなくて良いって  
でもそうね…どうしてもって言うなら  
今度またパフエでも奢ってよ♪」



コイツー  
シノン○は自分のマン○に知らない男のチン○をハメられてるってのに  
その事には全く気付かず楽しそうにキリトと音声通話を続けている

これは勿論催眠アプリの効果だ  
アスナからシノンのことを聞き出した俺はアスナにシノン○を呼び出させ  
隙を見て催眠アプリを使用しチン○をハメてやったんだが  
その最中に偶然キリトからの通話が来やがった  
(面白そうだからチン○をハメたまま通話をさせてみた)

シノンのマン○はアスナとはまた少し違って  
キツキツな感じがするが、これはこれで気持ち良くてグツドだ

しかも好きな相手(キリト)と話してる最中に  
犯してるっていうのが最高に興奮するぜ！

それにしてもこのキリトで野郎  
アスナっていう極上の女がいながら  
こんな可愛いシノンとまで良い関係だなんて  
本当ムカつく野郎だぜ!

だがまあ――

そのアスナもシノンも今じゃ俺のチン○ケースだがな!  
はははっ! ザマあ見やがれ!

「そっかいえば今度またGGOで大会が――  
んあっ♥」

「ん? どうしたシノン?」

「え? 何が? ...あっ♥」

「いや...なんか変な声が聞こえたから...」

「変な声って失礼...ねっ♥ 別になににもないっ♥わよ」

「そっか、それなら良いんだけど...」

このキリトてヤツも鈍いよなあ。いくら音声だけとは言え  
通話の相手がチン○ハメられてる真っ最中つて気付かないもんかねえ

気付かれそうなら途中で止めようと思ってたが——タイムオーバーだ  
罰ゲームとしてシノンには大量中出し精液ボテ腹の刑だ  
オラツ！俺様のザーメン、たっぷりと味わいな！

「それで大会の詳細…なんだけど…んあああっ♥」

「おいシノン！本当に大丈夫か！」

「大丈夫…だと思っただけど…  
ちよつと体調がイマイチ…なのか…なっ♥  
特に…お腹があ♥ちよつと張ってるような…♥」



シノンがキリトと会話している間  
俺は文字通りチート級の量のザーメンを  
シノンのオマン〇に履き出し続けてやった

シノンの子宮の中は俺の大量射精で一瞬で満タンになってたが  
そこから更に注入された大量のザーメンで腹は無理矢理膨らまされ  
妊婦のように大きさに膨れ上がっていた

それでも催眠状態のシノンは  
自分がどんな状況にあるのか全く気付かず  
キリトと馬鹿話を続けてい

だが体の方は特大精液ポテ腹に悲鳴を上げ  
本人が気がつかないうちに呼吸は荒くなり  
ハアハアと熱の籠もった吸音が響いていた



「それじゃ…今日は…ん♥これくらいで…ログアウト…ああん♥するね…」

「あ…あ…体調には気をつけてな…」  
《今日のシノンの声、妙に色っぽい感じがしたな…》

「…」  
「ほい、通話終了っと  
くくっ…シノンちゃんのお腹が  
俺のザーメンで妊娠したみたいにな  
パンパンのポテ腹になっちまったぜ

「…」  
「ほおら、中だけで無く  
体中にぶっかけてやる

「…」  
「全身くさいザーメンまみれで  
精液ポテ腹豚にお似合いの姿になっ  
たな  
どうだ、嬉しいだろ？」

「…」  
「ふん、これでもまだ自分が何をされてるのか気付いてないか  
それでも体は反応して乳首もピンピンになっちまってるがな  
それじゃ次は上の口からもたっぷり飲ませてやるぜ

まさか「あの」アスナと  
しかも生身でやれるだなんて  
ちよつと前まで想像も出来なかったぜ  
本当人生はいつ何が起こるかわからねえな

しかもアスナとのハメ取りの動画をネットで販売したら  
バカ売れしてとんでもない額の金が転がり込んできやがった

これで生活費は勿論、ゲーム課金もしたい放題  
本当催眠アプリ様々だぜ

そういえば催眠状態のアスナから聞いたが  
コイツには他にも可愛い女友達がいるみたいだな

ソイツらにもアスナと同じように  
この催眠アプリを使ってやれば  
ハメ放題で金ももつとジャンジャン入ってきて  
高級車や高級マンションだって……

くっ……くっくっ……！ははっ！  
笑いが止まらないとはこの事だぜ！

「どうだシノン、俺のチン○の味は」

「んっ♥あむっ♥あぁっ♥美味しい♥

キリトのチン○ずっと欲しかったの♥

キリトのだったら一週間洗ってないチン○でも尻穴でも喜んで舐めちゃう♥」

ふん、俺をキリトだと思わせた瞬間

メスの顔をしてチン○に食らいつきやがって

コイツも可愛い顔して一皮むけばただの発情した雌豚か

(アプリで性欲をMAXまで上げてるが)

「でもいいのかな…なんだかアスナに悪い気がするよ…」

「いなくなった女の事なんか気にするなよ

これからはシノンが俺の彼女だ」

「本当っ!あぁっ♥嬉しい♥

あっ♥嬉しすぎてキリトのチン○舐めてるだけでちよつとイっちゃった♥

これからは毎日キリトのチン○を入れて貰えるんだ♥」

「本当シノンは俺のチン○が好きだな。そんなに好きならもっと味わわせてやる」

「ふえっ?」



「おっ？うげえっ！おぶえええっ！」

「どうしたシノン？好きなんだろ？俺のチンポなら喉の奥まで飲み込むくらいなんてことは無いよな？」

「おぶっ！う…うん♥喉マシ○の奥までチン○入れて貰えて嬉しいの♥もっど♥もっど奥…うぶっ！奥まで入れ…おげっ！」

流石に体の拒絶反応が凄いな

まあ喉がビクビクして気持ち良いし

征服欲？みたいなのが満たされてすげえ良い気分だが

それじゃそろそろネタバレといくか

体の自由は奪った状態で認識だけ元に戻して、っど



「おっ！おげえっ！」

（な…何…！これ…どういう事…！な…私…何でチン○啜えさせられて…！）

この男…確かアスナと一緒にいた…それより！体が…動かない…！な…なんで！  
抜いて！チンポ抜いて…！息…苦し…！窒息…する…！死…んじやうう！）

ははっ！いい顔だなシン

喉がチン○で塞がっ息が出来なくて  
死ぬほど酸素が欲しいって顔だな

それじゃたつぷり味わいなく  
くれてやるのは酸素じゃなく俺の大量特濃ザーメンだがな

「んーっ！んぐうううっ！」

（いやあ！喉の奥に…直接…出されてるーや…やめ…！溺れ…る…！）



ふうっ、出した出した  
たまにはこういうのもいいかもな

それにしてもひっでえ顔だな

逆流したザリメンとゲロ、それに涙や鼻水でグチャグチャだぜ  
折角の可愛い顔が台無しだな、シノン

「お……うぶっ……う……げっ……」

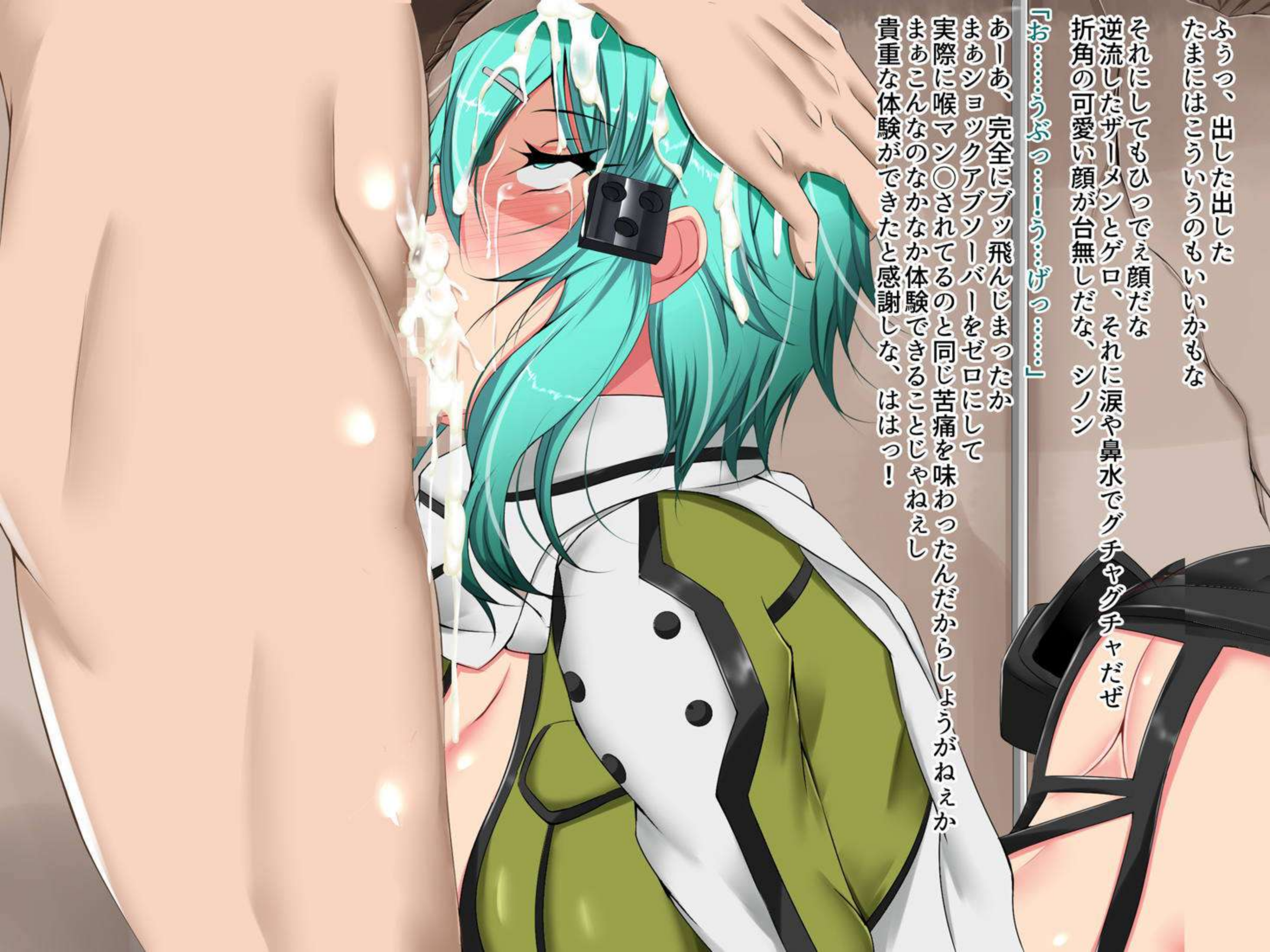
あーあ、完全にブツ飛んじまったか

まあシヨックアブゾーバーをゼロにして

実際に喉マン○されてるのと同じ苦痛を味わったんだからしようがねえか

まあこんなのなかなか体験できることじゃねえし

貴重な体験ができたと感謝しな、ははっ！



シノンの通話しながらセックス&ザーゲロイラマチオの映像もかなりの本数が売れて、俺の元にはまた大金が転がり込んできた

今では『次はこの女の催眠レイプ動画を出してくれ！』というリクエストが殺到している状況だ

その中で俺の目に留まったのは圧倒的な強さから『絶剣』と呼ばれている『ユウキ』という女だった

見た目は子供っぽくて胸も無いが巨乳が二人続いたし一旦こいうのを挟むのも悪くないだろ

しかし驚いたのは調べてみるとコイツもキリトと関係がある事だったキリトってヤツは一体何人の女と付き合ってるんだ！

お前はハーレム物の主人公か！  
(ユウキは別に付き合ってるってわけじゃなさそうだが)

…まあいい

ユウキは俺が一通り楽しんだ後に今までとはちよつと違った趣向を凝らさせてもらうか

「ほーらユウキちゃん、おじ…キリトくんのチン〇だよ」

「ああん♥このキリトのチン〇も大きくて好き♥」

「ほらほら、口が開いてるならこのちのキリトチン〇も啜えよう」

「うん♥いいよ♥口でもマン〇でもケツマン〇でも

好きな穴にキリトチン〇ぶち込んで♥」

（あれ…？何かおかしいような…）

ボクとキリトってこういう関係だったっけ…？

それにキリトが沢山…？

いや、気のせいだよね♥だってこんなに

沢山のキリトのチン〇に囲まれて

とっても気持ち良くて幸せなんだもの♥」

まったく滑稽だぜ  
今のユウキは催眠アプリのせいで  
目の前の豚みたい男共が  
大好きなキリトに見えてるようだ

「あの絶剣、ユウキとやれる券」を  
何十万つて金を出して購入したクズ共のチンポを  
上と下の口で美味そうに頬張ってやがる

それにしてもあの価格で速攻で売り切れるとは思わなかつたぜ  
もつと2・3倍の価格にしておきやよかつたな  
まあいい、その分はこの輪姦動画の売り上げで補填だな

「ほーら、ユウキちゃんの大好きなキリトチン○ミルクのおかわりでちゅよー」

「あっ♥んっ…♥ぷはっ♥」

「あぁっ♥チン○ミルク臭くて粘っこくて最高お♥」

「ははっ、本当ユウキちゃんはチン○ミルクが大好きなんだねえ  
お腹がチン○ミルクでこんなに大きく膨らんでタプタプなのに  
まだそんなにかっついて飲もうとするんだから」

「うん♥だからもっともーっとなんかチン○ミルク飲ませて♥」

「お腹が破裂するくらい…うん♥破裂させちゃってもいいから♥」

「そこまで言われちゃおじ…キリトも頑張らないとね」

「高い金出してた分、元が取れるまで何回でも出してあげるから」

「でもそろそろ一旦味付けを変えようか」

「えっ…?」

OKOK

ゲストも少し飽きてきたみたいだし

そろそろ洗脳解除といくか

絶剣に本気で暴れられちゃたまらんし

体の自由は奪った状態だな

「ああっ♥こんなに沢山のキリトにこんなにたっぷり  
ザーメンぶっかけられて♥ボクとっても幸……えっ?  
な……に……これ……どういう……事……? え……?」

「はははっ! 残念だったねえユウキちゃん!  
キリトくんとラブラブセックスしてるつもりが  
実は集団レイプされてるところでした!

「キリトくんのチン○だと思って嬉しそうにくわえ込んでた  
おじさん達の二週間洗ってないチンカスチンポの味はどうだったかな?」

「え……いや……嘘……嘘だよね……?  
こんな事あるわけ……うぶっ……!」



「おげえええええつ！えげつ…！おえええつ！」

『おいしいユウキちゃん、そりゃ女の子が出て良い声じゃないぞ』

「い…！いやあ！く…臭い！気持ち悪いドロドロ精液が

お腹から無限に溢れてくるううう！

い…いぎがあ…！おぼ…！溺れるう！

腐敗サーメンで溺れじぬうううう！」

『サーメンで窒息死か、それも面白そうだねえ

いっちょやってみるとするか

V Rで死んだとしても生身の方は

死にやあしないだろうし

まあどんな後遺症が出るかはわからんが』

おいおい勘弁してくれよ

コイツはまだまだ稼げそうなんだ

壊して貰っちゃ困るぜ

まあ多少壊れた程度ならアプリでなんとでもなるだろうし

本格的にぶっ壊れる一歩手前くらいまでは様子を見るとするか

次のターゲットは——リズベットだ

情報によるとコイツはキリトにかなりゾッコらしい  
そういう事なら多少無理しても大丈夫そうだな

最近大量購入したエログッズ  
コイツで試してみるとするか

大体非合法の超強力なエロアイテムだし  
アスナやシノンに使ってぶっ壊れたら勿体ないからな



「ね…ねえキリト…本当にやるの…?」

「え?何?今更嫌だつて言うの?」

「ううん!嫌なわけじゃないの!キリトが見たいなら私なんだつて…!!  
ただ…感度が三千倍になる電子ドラッグを使って  
しかも使用禁止の強力なバイブやローターまで使ったら…  
私…壊れちゃうんじゃないかって…」

「はあ…もういいよお前、マジ萎えたわ  
俺は帰ってアスナで口直しするから  
お前はもう二度と俺の前に現れるな」

「ひっ…!ご…ごめんなさい!

今の嘘!全部嘘なの♥

本当はこういうの大好きで

私がキリトに見て欲しかったの♥

だからお願い…!お願いですから

リズがぶっ壊れるとこ見ててください!

キリト…様あ…!お願いですからリズを捨てないで…!!」

「なあんだ、ビックリさせるなよ  
一瞬本気にしちゃったじゃ無いか  
だが覚えておけよ?二度目は無いからな」

「は…!はひい!」

「それじゃコレがバイブとローターを全部一気に始動させるスイッチだ  
ほら、自分で押せよ」

「はあ…はあ…んっ!」

(ピッ)



「あぎやあああああつ！ひっ……！ひぎやあああつ！  
ら……！らめっ……！こ……これっ！強力しゅぎいいいっつ！  
イってる！さつきからイキぱなしなのに  
更にいぎゅううううっ！死ぬう！いぎじぬうううう！」

ははっ、確かにコレは凄いな

アスナとかでやるまえにコイツで試して置いてよかったな  
折角の金のなる木をこんなんで壊してたら勿体なかったぜ

「キ……キリト……！もう……いい……でしよ……！  
もう……本当……につ……限界っ……！なのお……！  
し……死んじや……うう！」

「ああ、よく頑張ったナリズ

俺の為にここまでやってくれるのはリズくらいだよ  
ほら、感度を元に戻す中和剤だ。落とさずちゃんと飲めよ」

「ああ…♥キリト…♥やっぱりキリトは優しいね♥大好きっ♥  
これからもずっとずーっと一緒にいようね♥」

（本当バカな女だぜ、何の疑いも無く薬を飲みやがった  
今飲んだのは感度を更に百倍にする薬だったのによ  
効き始めた瞬間にバイブも数十倍強力なヤツに変えてやる）



薬の効果が出た瞬間  
リズの体が一瞬弾けたかのように大きく跳ね  
既に人の言葉では無い絶叫を上げたかと思うと  
リズの意識は完全に吹っ飛んだようだった

だが意識は無くても体には常軌を逸したレベルの快感が与えられ続け  
リズの体は今まで俺が見たことが無いような異様な痙攣を続けていた

体の穴という穴――

口や目や鼻、マン○やケツ穴は勿論

全身の毛穴からも異様な量の汗が噴き出し

特に尿道からは自分の顔に掛かるのも厭わず

大量の尿（？）が吹き出し水溜まりを作っていた

よく見るとリズは呼吸すらまともに出来ないように

口をパクパクさせてはいるものの空気は入っていかず

真っ赤だった顔色が紫色に変わりつつあった

これには俺も流石にちよつと引いたが  
こういうのを見るのが好きな物好きも居るし  
コイツも大好きなキリト（だと思ひ込んでる俺）の目の前で  
これだけ思い切りイって幸せそうな顔をしてる…  
気がしないでも無かった

キリトについて調べていて一つ分かったことがある

ヤツには『直葉(すぐは)』という妹が居るらしいということ  
そしてその妹はかなり可愛いうこと

しかもおあつらえ向きにVRゲームもやってると来た

これはもうヤルしかないよなあ？

折角だ

最近手に入れた膨乳電子ドラッグ  
『ポウニユウX』の実験台にしてやるぜ

「はあっ♡はあっ♡どう？私のおっぱい気持ち良い？お兄ちゃん♡」

「ああ、こんなに気持ち良いパイズリは初めてだよスグ」

「本当？嬉しい♡まさかお兄ちゃんこんな事が出来るだなんて♡」

「本当はずっと前からこうしたかったんだけど私達兄妹だしこんな事したいって言うたらお兄ちゃんに嫌われると思って…」

「実は俺も前からスグとはこうしたかったんだ」

「ほ…本当に…？やだ…どうしよう…嬉しすぎて涙が…」

「あはっ♡それじゃ私からお兄ちゃんにプレゼント♡お兄ちゃんのおちんちんもっ♡と気持ち良くさせてあげるね♡」

「っ…！やれやれ、本当スグのパイズリは気持ち良いな  
どれ、それじゃ俺からもプレゼントを贈らなきゃな」

「やったあ♡ふふっ♡プレゼントって一体なんたる♡」



「痛っ……!え……何をしたの……?注射……?」

「ああ、今よりちよつと(三千倍)気持ち良くなる薬さ」

「そ……そうなんだ……」

「他にも面白い副作用もあるが……まあそれは後のお楽しみだ」

「んっ……♡早速効いてきたかも……♡  
ああっ♡す……凄いやお兄ちゃん♡  
おっぱいがまるでオマン♡みたいにな

気持ち良いの♡  
お兄ちゃんのチン♡挟んでるだけで

おっぱいマン♡凄く気持ち良いのお♡  
んんっ♡というかちよと気持ち良すぎかも……

お兄ちゃん!この薬本当に大丈夫なの?  
あっ!あああっ!ダメツ……!

気持ち良くなりすぎて怖いよ……!  
私が私じゃなくなっちゃいそう……!

「心配しなくても大丈夫だよスグ  
俺がついてるんだ  
安心して好きなだけ気持ち良くなって  
いいんだぞ」

「そ……そうだよね……♡はっ♡ああっ♡  
本当おっぱいでセックスしてるみたい♡  
これだけでイっちゃいそ……

んぎっ……!な……何……?  
胸の奥から変な感覚が……  
まるで何かが大きく膨らんで  
いつてるような……」

「おっ、効果が出て来たみたいだな  
さあ、面白いモノが見られるぞスグ」

「おっ、効果が出て来たみたいだな  
さあ、面白いモノが見られるぞスグ」



「ひあああつ♡何これええつ♡  
私のおっぱい♡化け物みたいに大きくなつちやつたよお♡」

「凄いだろ、これが薬の副作用さ  
見てみるよ、乳首もチン〇みたいにピンピンに勃起してやがるぜ」

「うん♡これしゅごいのおおつ♡  
痛いくらいビキビキに勃起した乳首チン〇超気持ち良い♡」

「ははっ、気に入ってくれて嬉しいよスグ  
でもそんなおっぱいじゃ  
もう人前には出られないな」

「あはっ♡もうそんな事  
どうでもいいよお兄ちゃん♡  
私はお兄ちゃんがいれば  
他には何もいらないんだから♡  
これからはずーっとここで  
お兄ちゃんのおチン〇の  
お世話をしてあげるね♡」

「それは嬉しいな。それじゃこれからは  
毎日朝から晩までスグとセックスだな」

「リズムもそうだったが洗脳アプリで  
ちよつと心の『タカ』を外しただけで  
ここまですっ飛ばとは  
どんだけキリトラブなんだよ  
ヘラッたら危ねえタイプだな」

「本当っ！ああつ♡ダメっ…お兄ちゃん♡  
私嬉しすぎて…気持ち良すぎて…♡弾けちゃいそうっ♡  
胸の奥から熱いのがこみ上げてきて…♡  
あああああつ♡出るっ♡お兄ちゃんへの思いが溢れ出ちやうううっ♡」



「んおおおおおつ♡おおおつ♡おほおおつ♡  
お兄ちゃんラブミルクが無限にでりゆうう♡  
牛みたいな乳から牛みたいにミルク吹き出してイキまくる  
ブラコンメス牛でこめんなさいっ♡」

「ああっ♡お兄ちゃんのチン○からも勢いよくミルクでてりゆう♡  
凄いつ♡こんなに勢いよく噴水みたいにびゅーびゅー吹き出して♡  
私のおっぱいマン○でこんなに気持ち良くなってくれて嬉しいよお♡  
ああん♡勿体ないっ♡お兄ちゃんザーメン全部飲みたいのにい♡  
勢いよく出過ぎて上手く飲めないよおっ♡」

「ははっ、そんなに俺のザーメンが飲みたかったのか  
心配しなくても嫌と言うほど飲ませてやるよ  
下の口からたっぷりとな」

「下の口って…まさかオマン○にお兄ちゃんの  
チン○入れてくれるの…？やったああっ♡  
っいに夢にまで見た兄妹セックスが出来るのね♡  
入れて♡今すぐ入れてええ♡  
妹マン○にお兄ちゃんチン○ぶち込んで  
妊娠するまで子作りミルクたっぷり飲ませて♡」



俺はパイズリだけでイキまくってる直葉の

太もものあたりを手を当て抱きかかえる

(リアルだと引きこもりの俺にこんな筋力は無いが

VRならこんな事も簡単にできちまう)

その体勢で抱え上げられた直葉は

オマン○が丸出しのかなり恥ずかしい格好になるが

大好きなお兄ちゃんのチン○をブチ込んで貰える嬉しさで

恥ずかしさなど微塵も感じてない様子だ

もう待ちきれないって感じだし、そろそろ妹マン○に

キリトお兄ちゃんチン○を突っ込んでやるとするか

洗脳を解くまでの僅かの間、せいぜい楽しむんだな

「あああっ♡き…きたあっ♡  
私のオマン○にお兄ちゃんチン○来たあ♡  
しかもゴム無し生チン○ハメ♡  
これっ♡♡コレずーっと待ってたのお♡  
あっ♡ああん♡嬉しくって気持ち良くて♡  
私もう死んじやってもいい♡  
あ、やっぱりダメ♡  
だってこれからは毎日お兄ちゃんと  
子供りツクスするんだから♡  
そしてお兄ちゃんの子供が出来たら  
子供達も一緒にまた子供りツクスするの♡」

さて  
トンデモ妄想に浸つてるところ悪いが  
そろそろ催眠(認識誤認)を解除させて貰うぜ  
幸せの絶頂から一気にドン底にたたき落とされて  
どんな表情を見せてくれるのか楽しみだぜ

「ああん♡チン○♡お兄ちゃんのチン——  
え……？お兄ちゃん……じゃない……！だ……誰！  
ひいつ……！いやあああつ！は……離して！チン○抜いてええつ！  
そんな……嘘……！私お兄ちゃん以外の人とこんな……」

「おいおい、さっきまで美味しそうにチン○くわえ込んでたのに  
お兄ちゃんじゃ無いって分かった途端そりゃ無えだろ  
それにほら、いくら頭で嫌がっても薬の効いた体の方は——」

「ひいつ♡あつ♡いやあ♡う……嘘お♡  
なんで……こんなレイ○男のチン○で  
こんなに感じちやうのお♡  
ダメえ♡感じちやダメなのがいいっ♡」

「ほらな、結局チン○だったら誰のでも良いんだろ？  
そんなエロ豚にはもっと良いモノをプレゼントしてやるぜ」

「え……？注射……？  
これ以上一体何をするつもりなの……！  
お願いっ……！や……止め——！」

「いつ…!! いやあああつ! 私の…!! 私のおっぱいがああつ!  
こんな…!! 化け物みたいな大きさにいいいい!!」

「ははっ、そんなにバカでかい乳を見たら  
キリトお兄ちゃんもドン引きだろうな  
『お前みたいな化け物おっぱいは妹じゃ無い!』  
って言われるんじゃないか」

「そんな…嫌あつ…!!  
戻して! 早く元の大きさに戻してええつ!!」

「なんだ? 折角胸がそんなデカくなったのに気に入らないのか?  
まあ一時間もすれば勝手に元の大きさにもどるぜ  
ただし——一回でも絶頂したらもう二度と元に戻らないがな」

「なっ…!!」

「ほおら、それじゃ動くぜ」

「一生そのおっぱいのままになるのが嫌なら  
せいぜいイかにように頑張って耐えるんだな」

「そんな…!! む…無理っ! 絶対に無理い!

「さつきから体の感度が異常で何回もいきまくってるのに——  
一時間なんて絶対耐えられるはずないよおお!!」

「残り五分か、まさかここまで耐えられるとは思ってなかったぜ」

（は…早く終わって…♥もう本当に限界なのお♥）

「それじゃ最後はおまんこにたっぷり射精してやる  
ちなみに中出しされたら感度が更に数十倍になるから  
イキたくなかったら気合い入れて我慢しろよ」

（そんな！そんなの無理！絶対に無理いい！イク！絶対にイっちゃおうよお！）

「ははっ、いい顔だぜ。ほら！超乳確定アクメ、イっちゃいな！」

「あひいいいいっ♥出てるう♥中でザーメンびゅーびゅーでてりゆうう♥

も…もう無理い♥おっぱいもおまんこもいきゆううう♥

あっ♥あああっ♥イっちゃったあ♥思いつきりイっちゃった♥

あはっ♥あははっ♥これでもう一生このおっぱいのままだあ♥

でもこんなに超乳射乳気持ちいいんだったら

もう一生化け物超乳でいいやあ♥

あー♥あああっ♥射乳が♥気持ち良いのがとまらない♥

母乳ザーメンと一緒に記憶も理性も全部出ちゃってるみたい♥

もうオマンことおっぱいの事しか考えられないよお♥」

それから数日

俺はまたネット上で面白そうなアプリを見つけた  
ふたなり化電子ドラッグ『フタナールZ』だ

またウン十万っていうトンデモ価格だったが  
コイツのアプリの効果が本物だと知っている俺は  
迷うこと無く購入した

ふたなりもかなりの需要があるようだし  
この程度の出費、すぐに元が取れるだろ

さて、問題は誰に使うかだが――  
よし、アイツならふたなりが良く似合いそうだな

「はあ…はあ…くっ…♡こんな…  
こんなのを弄って気持ち良くなっちゃダメなのに…  
手が…♡チン○シヨシヨする手が止まらないよお♡」

ユウキは目の前に俺がいるにもかかわらず  
恥ずかしげも無く自分の巨大ふたなりチン○を  
夢中になってセズリしている

クリをチン○化した当初は親指くらいの大きさだったが  
一度チン○絶頂させ射精の快感を体に覚えさせ  
その後二週間、射精禁止状態で放置したところ  
射精出来ないにもかかわらずチン○を弄る手が止まらなくなり  
絶頂する度にチン○が巨大化していき  
今では巨大デイルドのような大きさになっていた

「ああっ♡イク直前で止めようとしたのに…ダメっ♡止まらない♡  
いっ…♡ひぐうううっ! あああっ! なんて…何で出せないのおおっ!  
射精えっ! ザーメンびゅーびゅー射精したいのにいいいっ!  
お願い! 射精させてえっ! チン○もキンタ○もンパンで破裂しちゃうう!」



「そんなに射精したいのか？最初はあんなにチン○なんて嫌だ！元に戻して！」って騒いでたのに」

「それは……ひぐうっ♡」

嘘っ♡前に言ったのは全部嘘だから♡

本当はこんな気持ち良いおちん○生やしてくれて

感謝してるの♡だ……だから……

だから出させてえ！びゅーびゅー射精させてえ♡」

「しよがないな、それじゃ射精禁止のロックを外してやる

二週間溜めに溜めた濃厚熟成ザーメン、思いっきり射精しな」

「やった♡やっど……やっど出せる♡」

ああっ♡どうしよう♡最初の射精でも死ぬほど気持ち良かったのに

二週間分の射精を一気に射精したら……気持ち良すぎて死んじゃうかも♡」

「ただし、あと一回でも射精したらそのふたなりチン○は二度と取れないからな  
更に言うとログアウトも永久に不可能になるから

お前は一生このVR世界でそのチンポを生やして生きていくことになるぜ」

「なっ……！」

「まあ俺はどっちでもいいがな

ほら、射精しなければあと十秒でチン〇は消滅して

二度とチンポを生やすことも射精の快感を得ることも出来なくなるぜ」

「そんな…一生ふたなりで生きるかチン〇を失うかどちらかを選べだなんて…  
そんなの…ボクは」

「あああっ♡考えてる間に手が勝手に動いちゃってるう♡  
チン〇♡チン〇気持ち良い♡  
こんなに気持ち良いのを手放すだなんてあり得ない♡  
あーっ♡チン〇の奥から凄いのがこみ上げてくるっ♡  
出るっ♡出ちゃう♡出しちゃう♡  
一生ふたなり確定射精いっくうううっ♡」

「ははっ、やっぱりチン〇には勝てなかったか  
それじゃ人生ふたなりチン〇奴隷ルートを選んだ  
ユウキには俺からプレゼントだ」

俺はふたなり化電子ドラッグの効果パラメーターを一気にMAXにした

「ひぐうっ♡な…何をしたの…?あ…あああっ♡  
射精してる最中なのに快感が更に高まっていくううう♡  
だめえっ♡ダメダメダメえっ♡これ気持ち良すぎて  
本当にチン〇狂いになっちゃううううっ♡」

「ああっ♡ひいいっ♡チン○気持ち良いだけじゃ無い♡  
チンポの大きさも♡どんどん大きくなってりゆう♡  
これっ♡これしゅごいよおおっ♡しゅごい気持ち良い♡  
手が勝手にちんち○シコシコして射精するの止まらにゃいのお♡」

「すっかりチン○も気に入ったみたいだな  
ああ、そうそう

「そのチン○な、射精すればするほど大きさと感度が増していくが  
『上限は無い』らしいから、適当なところで止めておけよ  
バカみたいにしこしこびゅーびゅーしてたら  
取り返しが付かない事になっちまうぜ」

「ひっ…!そんなの今更言われても…!  
無理いっ♡今更チン○射精止めるなんて無理いっ♡  
あああっ♡ま…またっ♡またいくうう♡  
はぎやああっ♡またチン○デカくなっちゃったあ♡  
か…感度もどんどん高まって♡こんなの抜け出せないよおおっ♡」

「それじゃ俺はもう寝るからログアウトするぜ  
また明日見に来てやるからそれまでは壊れんなよ」

「ま…待って!置いてかないで…コレ止めていってええっ♡」

「うっ！臭えっ！ ユウキのことすっかり忘れてて三日も放置しちゃまったがとんでもないことになっちゃったな腐ったザーメンやら訳の分からない体液やらが混じってとんでもねえ悪臭で鼻が曲がりそうだ」

「あっ……♡あひっ♡あああっ♡」

「あーあ、もう俺が来た事も分からないかい完全にチン○と射精の事しか考えられないチン○中毒になっちゃってる」

「おっ……おとおおっ♡あっ♡あひあああ♡」

「チン○の大きさも射精量もとんでもねえな本当に無限に大きくなるって事はねえだろうがどこまで大きくなるのか試してみるかどうかどうせもう完全にぶっ壊れてるんだしそれくらいしか使い道ねえだろ」

「あはっ……♡しゃせー♡しゃせー……きも……ち……いい……♡た……て……キ……ト……♡」



アスナが失踪してから一ヶ月が経とうかという頃

俺はようやくアスナが今どこで何をしているのかを知ることになる

きっかけは俺の元に届いた差出人不明のメール

そのメールには下着姿で拘束されているアスナの画像が添付されており  
本文には「アスナを助けたければ今すぐログインしてここにこい」と書かれていた

どう見ても罨ではあったが俺はアスナを助けるために  
迷うこと無くログインした

「…はっ！…これは一体…俺はどうやってここに…」

「あ、意識が元に戻ったみたいだね。久しぶり♥キリトくん♥」

「アスナか…！良かった！無事か…！…って！一体何をしてるんだ！アスナ！」

「何って、見たら分かるよね？」

これからキリト君のケツマン○を

私のふたなりチン○で犯しまくっっちゃうの♥

キリト君のケツマン○処女喪失&

私のふたなりチン○童貞卒業ショーよ♥」

「何を言っているんだアスナ…」


まさか洗脳でもされたんじゃない？」

「洗脳？確かに最初は洗脳されて色々されたけど

気持ち良いことを沢山されて、すっごくHな体にされちゃった♥

今は完全に自分の意思でキリト君のケツマンコに私のふたなりチン○ハメて

思いっきり射精したいって思ってるわよ♥」



「アスナが…そんな…う…嘘だ…！  
くっ…俺が不甲斐ないばかりにアスナが…こんなだ…」

「そんな事言つて本当は私のチン○が欲しくてたまらないんでしょ？  
エツちな下着の中でキリト君のチン○が  
笑えるくらいギンギンに勃起しちゃってるじゃない♡」

「ち…違うんだ！これは…体がヘンで……」

（キリト君が催眠で意識が無い間に使った  
感度が数倍になる電子ドラッグ  
思いつきり効きまくってるみたいね♡）

「言い訳だなんて悪い子だね、キリト君は♡  
んっ♡それじゃ私もそろそろチン○我慢出来ないし  
入れちゃうね♡キリト君♡」

「ま…待て！アスナ！お尻に入れるだなんて…そんな…！」

「ダメ！入れちゃダメ——あひっ♡」

「あれー？どうしちやっただのかなキリト君♡  
ケツマン○にチン○—突きされただけでイっちやっただんでちゅかー？」

「嘘…だろ…俺…なんでイって—あっ♡あひいっ♡  
こんな…イキたくないのに…体が…チン○が勝手に気持ち良くなって…

イっちやう♡アスナが俺のケツマン○パンパンするたびに  
チン○からザーメンびゅっびゅしちやってるう♡」

「あははっ♡キリト君ったらゲームの戦闘はあんなに強いのに  
ケツマン○方は入れられただけでイっちやうクソ雑魚アナルなのね♡  
ほらほら♡キリト君のケツマン○メスイキアクメが見たくて  
高いお金を出して配信みてるお客さん達に  
彼女を寝取られたあげくふたなり改造されて  
そのチン○で犯されて無様に射精させられてるところを  
たーっぷり見て貰いましょうね♡」

「や…めて♡アスナ…♡だ…ダメっ♡これダメえっ♡  
俺本当にケツマン○がクセになっただけでメスになっただけ♡」



「止めて？私を寝取られたクツ雑魚チン○のクセに何生意気に命令してるの？  
いい？キリト君はもう私専用のケツマン○オナホなの  
今からそれを嫌と言うほど教えてあげるわ♥」

「や…めて…これ以上へんな事しないで…！  
ひぐっ♥い…いやあっ♥  
気持ち良いのがどどん膨らんで♥  
これ以上気持ち良くなっちゃダメなのお♥  
俺が…俺じゃなくなっちゃう♥」

「感度千倍で泣き言なんて本当情けないわね、キリトちゃん♥  
まあいいわ♥時間はたぷりあるんだし  
これから私好みのケツマン○オナホに仕上げたってあげる♥」



「あーっ♥あああっ♥だめえっ♥ケツマン○アクメ止まらない♥  
チン○からトコロテンザーメン永遠に出ちやつてるう♥  
こ：怖い！このままじゃキンタマの中のザーメン全部流れ出て  
一生射精出来ない負け犬メスチン○になっちやうっ♥」

「ほらほら♥

キリト君のチン○なんて、もう一生女の子にハメる事なんて無いんだから  
キンタマ○の中のザーメンもまで今ここで全部出し切っちゃいなさい♥」

「やだやだやあ♥射精しちやダメなのにザーメンお漏らし止まらないよおお♥」

「ああそれとキリト君のお食事はこれから一生私のザーメンだけだからね♥  
あ、口から食べられるだなんて思わないでね♥お尻から直接吸収だから♥  
最初だしお腹いっぱい食らわせてあげるわ♥  
ほら♥出すわよ♥一滴でもこぼしたらお仕置きだからね♥」

「ひっ♥す：凄い勢いで中でびゅーびゅー出てる…♥

あ：あああっ♥出し過ぎっ♥も：もうお腹いっぱい♥

ひいっ♥アスナのザーメンでお腹が膨らんでりゅううっ♥」

「ア…スナ…も…やめ…  
ザーメンで…お腹…パンク…しちゃ…う…」

「ははっ♥これくらいでギブとかチン○だけでなく  
ケツマン○もクソ雑魚なのね、キリトちゃん♥

「…そしてさっきも言ったわよね？  
もう彼氏でも何でも無いアンタに  
命令される筋合いは無い、って  
自分の立場を分からせるためにも  
ちよつとキツめのお仕置きが必要みたいね  
それじゃ催眠アプリの設定を弄って  
感度と射精量を限界まで上げてあげる  
思いつきりケツマン○中出しアクメで  
イキ狂ちやいなさい、キリトちゃん」

「あ…あああつ！あびやあああああつ♥  
だだだめええつ♥これダメえええつ♥  
く…狂う！気持ち良すぎて狂いじぬうううつ♥」

「あああああつ♥あびやあああああつ♥  
いぐいぐいぐうう♥イグのどまらないいいい♥  
じぬううう♥こ…殺じでええええつ♥  
精液ポテ腹パンパンに膨らませて破裂死させでえええつ♥」

NTR物のフィニッシュとしてこんなもんかな

あのキリトのこんな姿が見られて非常に満足  
って声も多いみたいだしな

折角コマが揃ったんだ

今回の二人の記憶を消して

今回とはまた違ったNTRフィニッシュを撮るってのも悪くないな

本当便利だぜ、この催眠アプリは  
まったく催眠アプリ様々だな

「さっきのお店も素敵な品揃えだったわね♪  
それじゃ次のお店だけど——」

「おいおい、ちよつと待ってくれよアスナ  
それよりもそろそろメシにしようぜ  
もう俺お腹ペコペコだよ」

「ふふっ♪ししようが無いわねキリト君は♪  
近くに私のオススメのお店があるから  
そこに入るうか♪」



今日はアスナとシノン、そして俺の三人で街に遊びに来ている  
俺が言うのもなんだけど、二人はかなりの美人で  
そんな美人二人と歩いてるものだから結構注目を集めてしまう  
（俺自身も女性から結構好かれるタイプみたいだし）

——それにしても今日はいつも以上にみんながこっちを見てる気がするが——

——みたいな幸せ絶頂のラブラブデート中だと思ってるんだろ  
うな本人達は

だが実際に今自分達がどんな状態なのか知ったら——  
くくっ、その時の反応が楽しみだぜ



「キヤー！な…何あの子達……！」

「露出狂の痴女が三人も……いや一人は男か……？」

「やっべW写真撮ってSNSにアップしよW」

「誰か警察呼べよ！」

「ねえキリト君、私達なんか妙にみんなに見られてる気がしない……？」

「まあ仕方ないさ、なにせこんなイケメンと美人二人が揃ってデートしてるんだ注目集めるのも仕方ないって有名税だと思っただけよ」

「ふうん、美人二人はともかくイケメンねえ流石イケリト様は言うことが違うわね♪」  
「おいおい、その呼び方はよしてくれよ」



さて、それじゃそろそろ洗脳を解いて  
認識を元に戻してやるか  
せいぜい良いリアクションをして  
配信を見てるヤツらを愉しませてやってくれよ



省 曲  
♡ハラ ♡ホテ中♡  
♡ 変♡態

♡ 雌男娘  
抱♡♡♡  
ガコチホ

ガールズ大好き♡  
我♡の豚

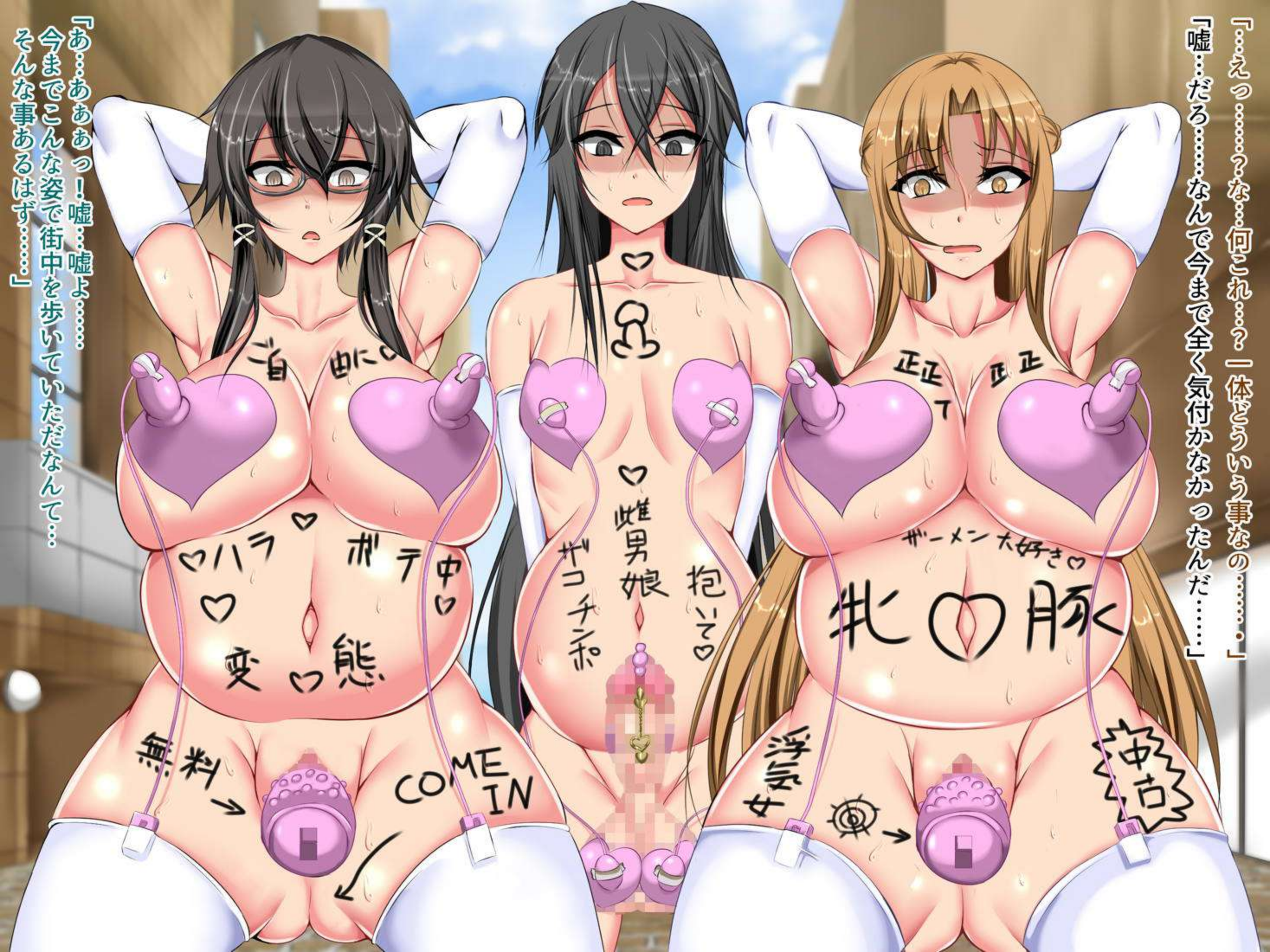
漁料 →  
COME IN  
←

女漁  
→  
←



「……えっ……？……な……何これ……？……一体どういう事なの……？」  
「嘘……だろ……？……なんで今まで全く気付かなかったんだ……！」

「あ……あああ……！嘘……嘘よ……！  
今までこんな姿で街中を歩いていただけなんて……  
そんな事あるはず……！」



んんっ？あまりに衝撃的すぎて反応がイマイチだなあ  
まあいいや、本命の仕掛けはまだ残ってるしな

洗脳中は全く気付かなかっただらうが  
感度数千倍の状態  
何百、何千回分っていう  
絶頂がストックされてるんだ

そして洗脳が解除された十秒後  
その数千回分の絶頂が  
一気に襲ってくる、って訳だ

あまりの快感にチン○マン○狂いになるか  
脳が焼き切れて廃人になるか  
それともイキすぎて心臓が止まっちゃうか――

おっ、三人とも洗脳前に教えておいたその事を思い出したみたいだな  
これから自分がどうなるのか気がついて青ざめてるがもう遅いぜ  
さあ、そろそろ時間切れだ。 3...2...1...!!



「あぎやああああ♡いぎゆう♡いぎまぐる♡  
いぎすぎてじぬううう♡マンヨ♡マン♡マン♡おお♡  
数千回分アクメでマン♡気持ち良すぎて弾けるううう♡  
気持ち良すぎて頭の中までオマン♡になっちやうよお♡  
バイブだけなんて足りないよお♡  
チン♡もつとチン♡突っ込んで♡  
十本でも百本でもオマン♡にチン♡突っ込んで♡  
お腹が破裂するくらいオマン♡射精してええ♡

「ひいっ♡ひっ♡ひぐううう♡  
チン♡お♡チン♡イグのどまらない♡  
イてるのに更にいぐううう♡チン♡壊れちやうよお♡」

「ザーメン噴水もとまらにやいっ♡お願い♡止まってええ♡  
ザーメンと一緒に大切な物も全部出て行っちやうう♡  
アスナ♡シノン♡ごめん♡俺もうチン♡の事しか考えられなくなっちやう♡  
ああ♡ケツマン♡もキュン♡キュン♡してエツ汁が垂れ流しになってる♡  
自分のケツマン♡に自分のチン♡突っ込んで口から逆流するまで  
射精したいよお♡お♡お♡誰でも良いから犯して♡犯させてええ♡

「見てえ♡もつと見てええ♡  
シノンの膨乳ポテ腹改造洗脳無様が股アへ顔絶頂見てええ♡  
ああ♡みんなにゴミを見るみたいなの最高♡  
ごめんね♡人間として完全終了シチュエーションで興奮して  
イキまくる超絶変態ゴミクス女でゴメン♡  
お詫びにマン♡もケツマン♡も好きに使っていいから♡  
と言うかお願いよお♡どこでも良いからチン♡突っ込んで♡」



はははははっ！ コイツは傑作だぜ！

あのアスナが！ シノンが！ キリトが！

リアルでこんな無様な姿を晒して見世物になるだなんてな！

視聴者の数も収益もとんでもねえ事になってやがる！

なになに？

『ポテ腹が物足りない、もっと大きいポテ腹が見たい』だあ？

いいぜ、こんな事もあるうかと三人の腹や胸やチン○には

超小型のボンベが仕込んであるんだ

俺がこのボタンを押せばガスが噴出して

一気に腹や胸やチン○が膨張するって寸法だ

小型っていつても1m以上の風船を破裂させるくらいのパワーはあるし一度作動させればガスが全部出るまで止められなくなるが――

今日は気分が良いから大サーブスだ！

三人が風船みたいに膨らんで破裂するところを見せてやるよ！

は：ははははっ！ 押した：ボタンを押してやったぞ！

もう誰にも止められねえ！

ははっ！ 見てみるよ！

3人が風船みたいに凄え勢いで膨らんでってるぜ！

あーあ、あんな無様な人間風船みたいな姿になって

もうすぐ破裂しちまうっていうのに

気持ち良さそうなツラしてイキまくりやがって

っ：俺もなんか興奮してチン○ギンギンになっちまった

変な性癖に目覚めてたらヤベえな……

はあ：はあ：！ いいぞ：もっと：もっと膨らめ！

お前らが破裂するのと同時に俺もイってやる！

ふふっ：！ はははははっ！

END...

ねえキリト君  
聞いた？噂になってる例のアプリの話

『洗脳アプリ』の事だろ？勿論聞いてるさ

『誰でも洗脳出来る』って謳い文句で

とんでもない値段でアプリを売りつけてるっていう

でも実は相手を洗脳するわけじゃ無く

『洗脳出来た』と使用者に思い込ませるだけという

危険極まりないアプリだって

一度使用したら使用者はそれが現実だと思って

二度と現実世界に戻れないらしい

本当怖いわよね……

ああ

もう何十人も犠牲になっているみたいだしな

だが：使用者はみんなVRの世界の中とは言え

現実では味わえないような快感や幸福感を感じているらしい

本人が現実だと思いついてるなら

それはそれで一つの幸せなのかもしれないな

もしかしたら今ここに居る俺達だって

現実じゃないかもしれないし――

ちよ……！ちよつと！怖いこと言わないでよキリト君！

ははっ、悪い悪い

アスナが可愛いから、つい驚かせたくなつて

んっ？何かしらこのメール？  
差出人の名前もアドレスも無しって怪しさ全開ね…

内容は、なにになに？  
『洗脳アプリ』ですって？

ははっ♪洗脳アプリ(笑)って  
今時こんなのに引っかかる人間いないでしょ

でももし本物なら……  
このアプリでキリトを私に振り向かせたりも出来るって事よね……

ま…まあ下らないイタズラだとは思うけど  
お試し版は無料みたいだし一度起動くらいしてあげようかしら

さて、インストールも終わったみたいだし  
早速キリトに使ってみようかしら♪









































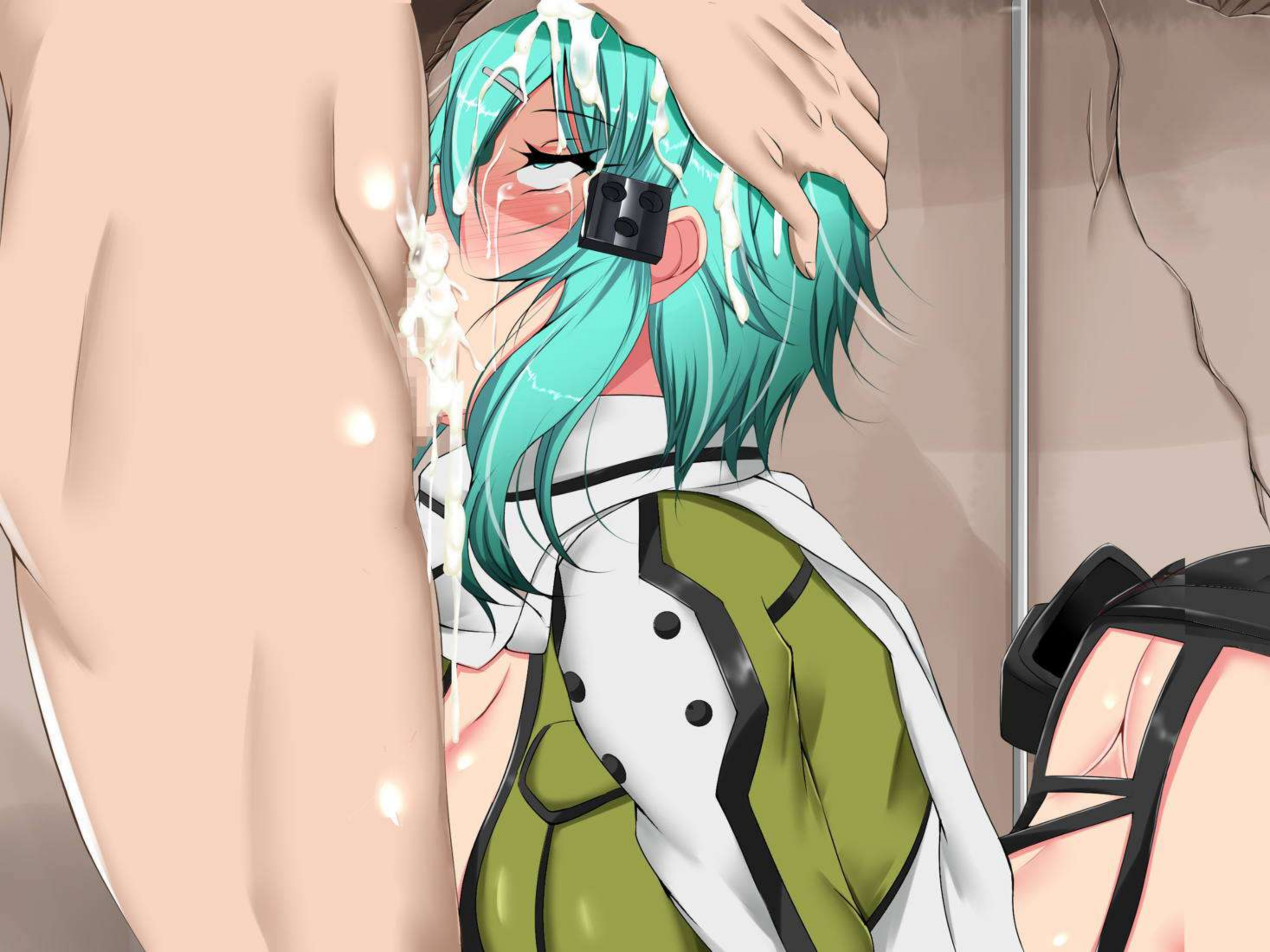












































































省由に心

ハラ  
変心態

COME IN

♡

雌男娘  
抱ニ

正正

女新薬  
女新薬



自由に♡

♡ハラ♡  
♡変♡態  
ボテ中♡

糞粒

COME IN

♡♡

♡雌男娘  
抱♡ん♡  
オコチホ

正正♡

正正♡  
ガールズ大好き♡  
我♡の脉♡

女新装

♡

中♡



自由に

ハラ♡  
♡  
変態♡

COME IN

抱ニク

抱ニク

抱ニク

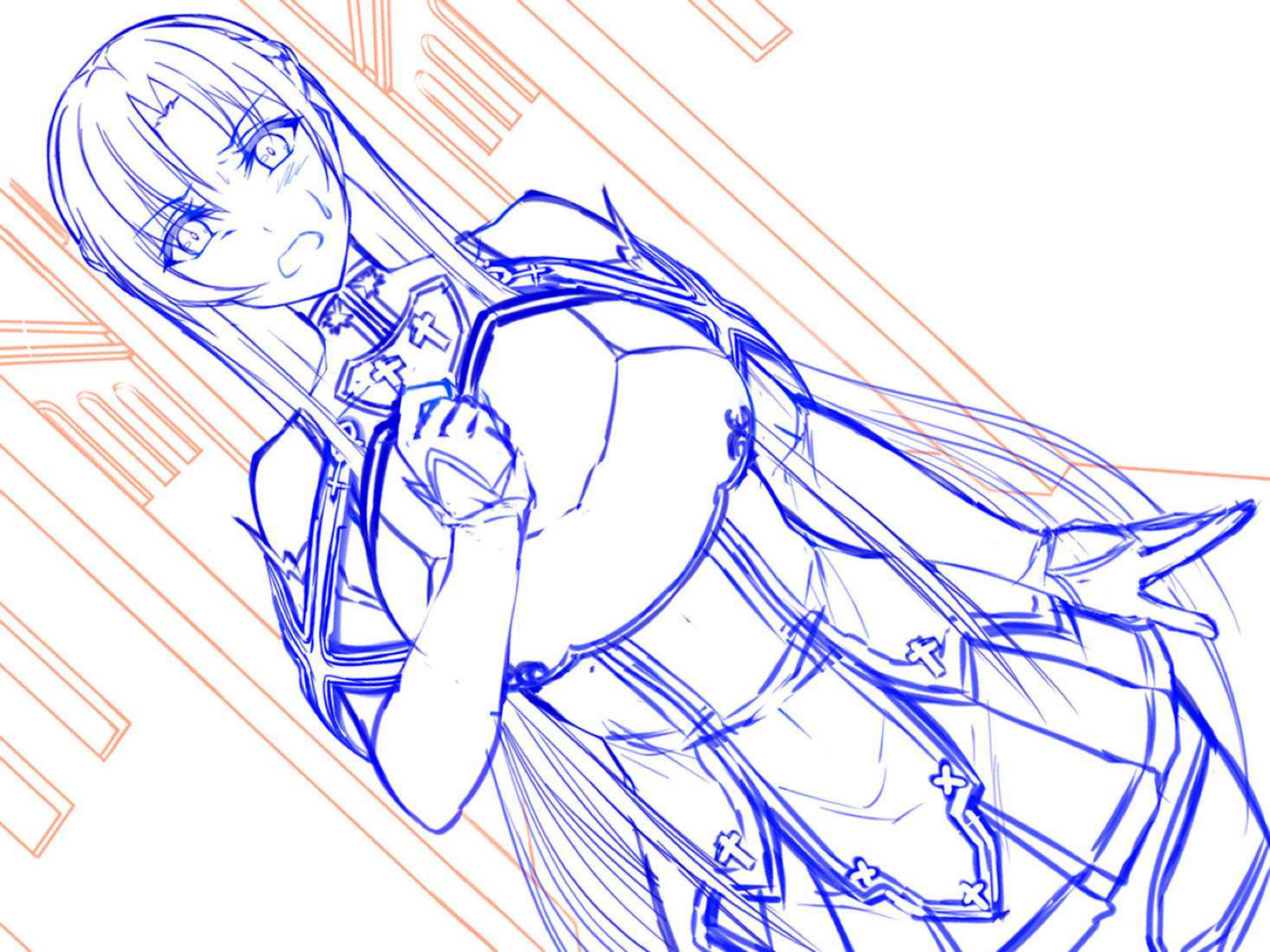
正正

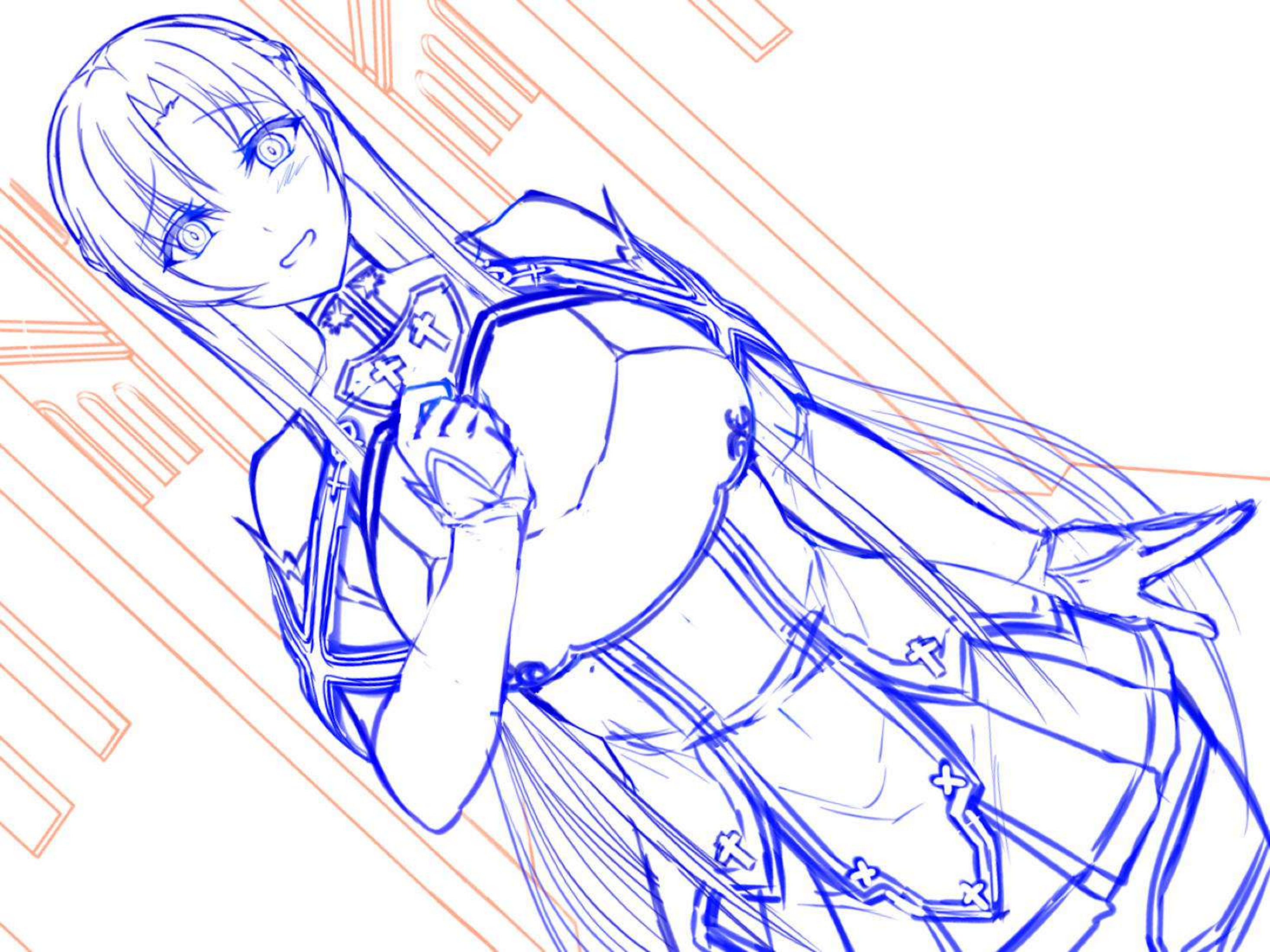
ガールズ大好き♡

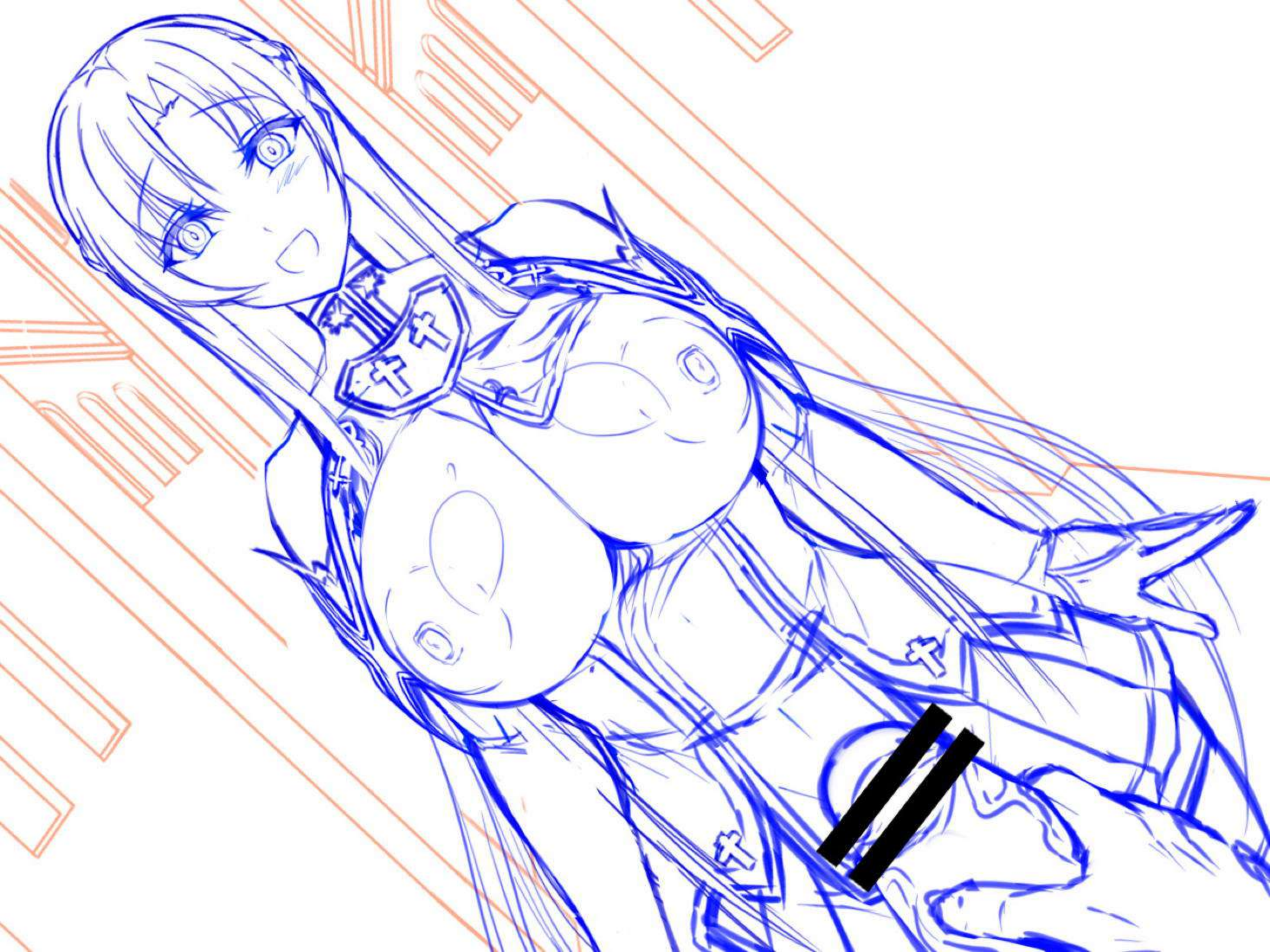
ガールズ

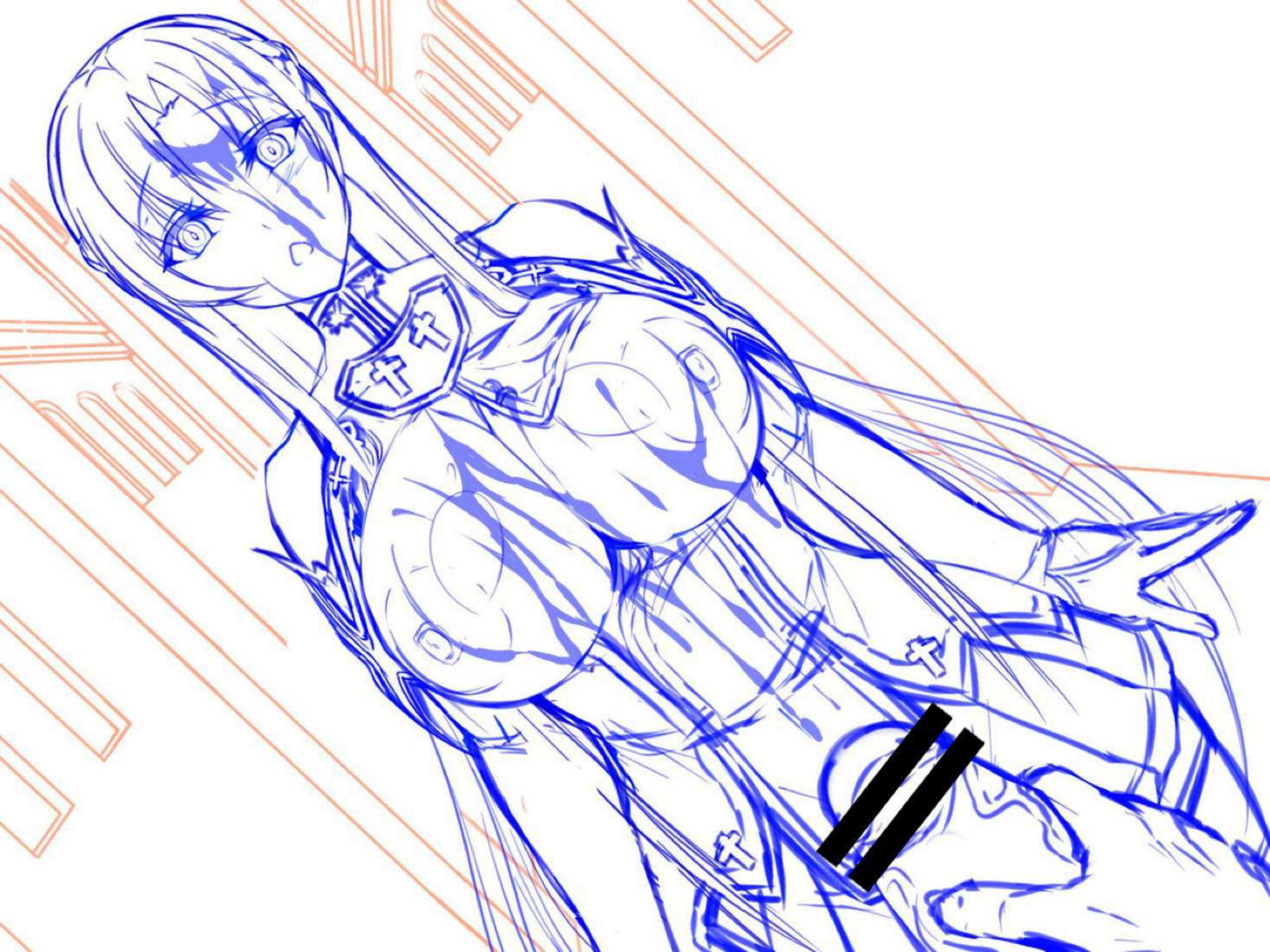
ガールズ

ガールズ

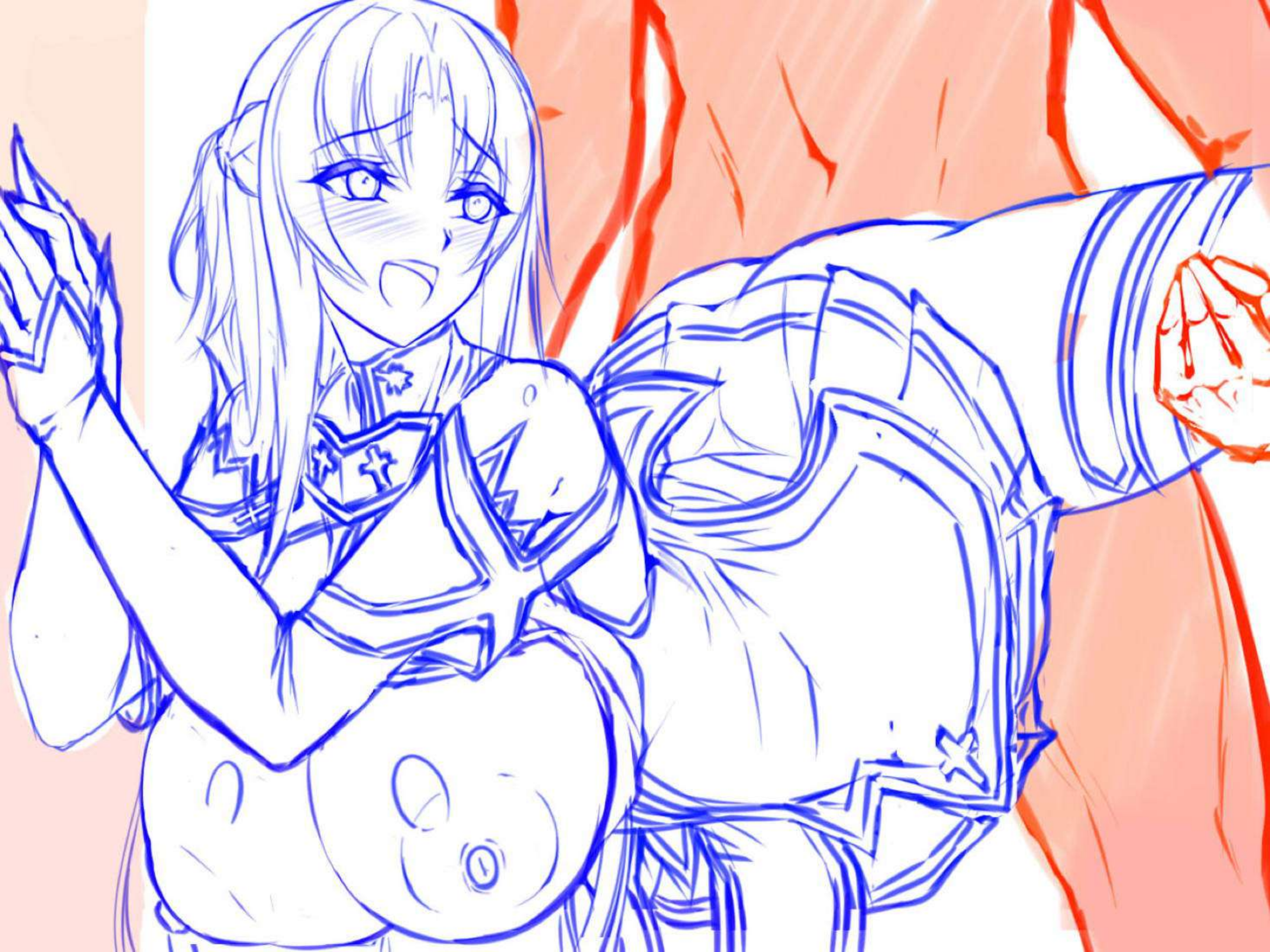


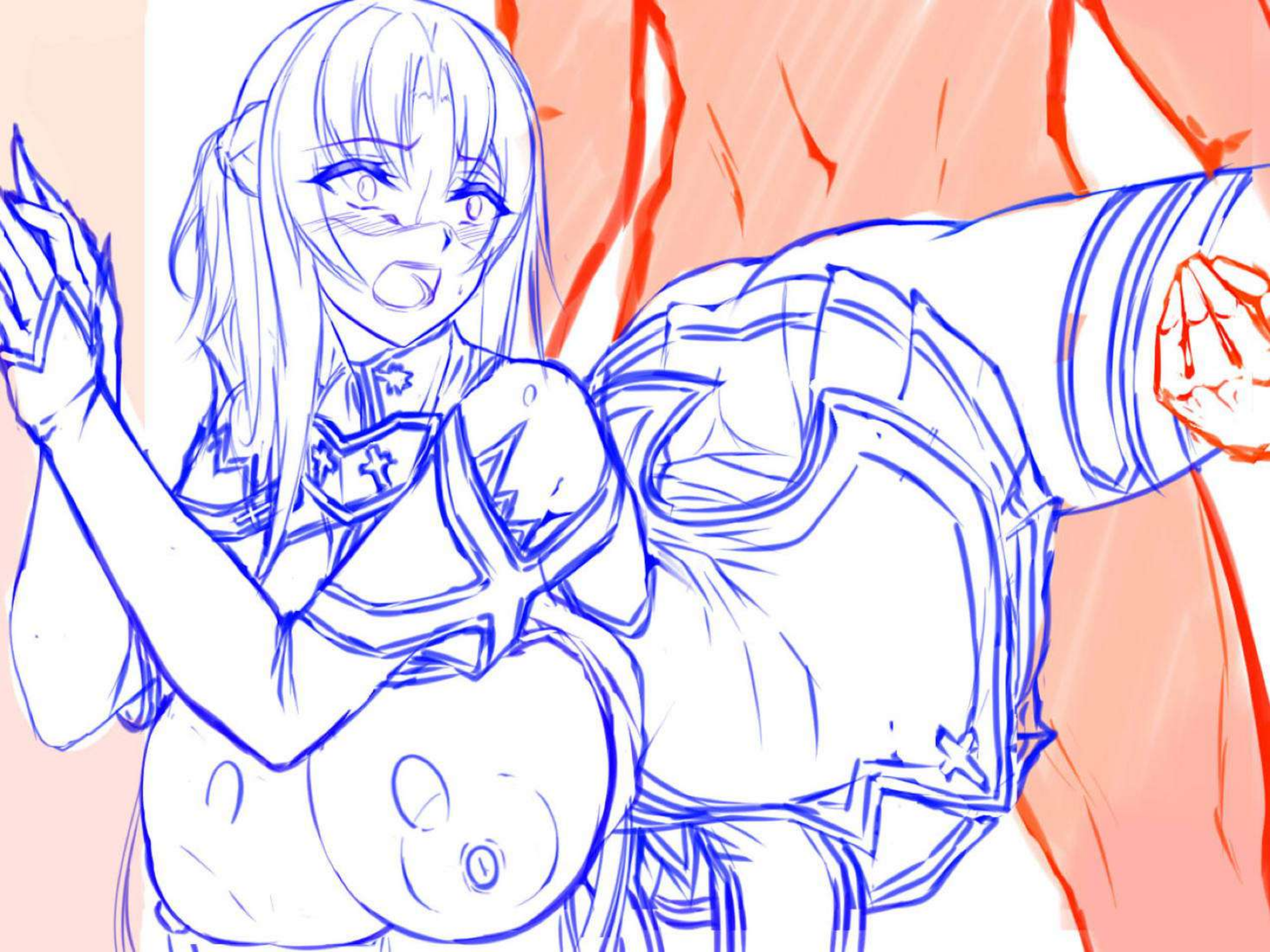


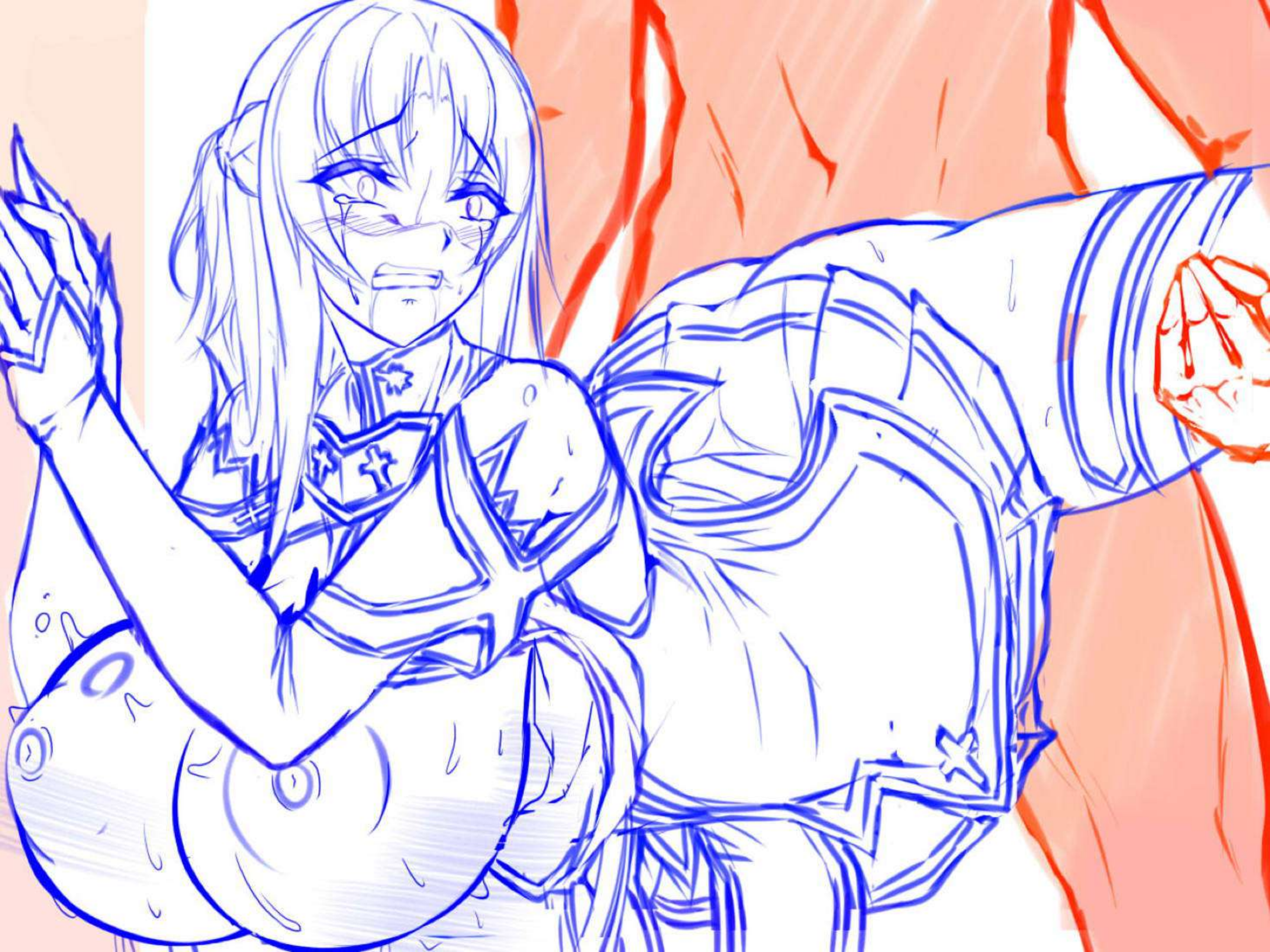




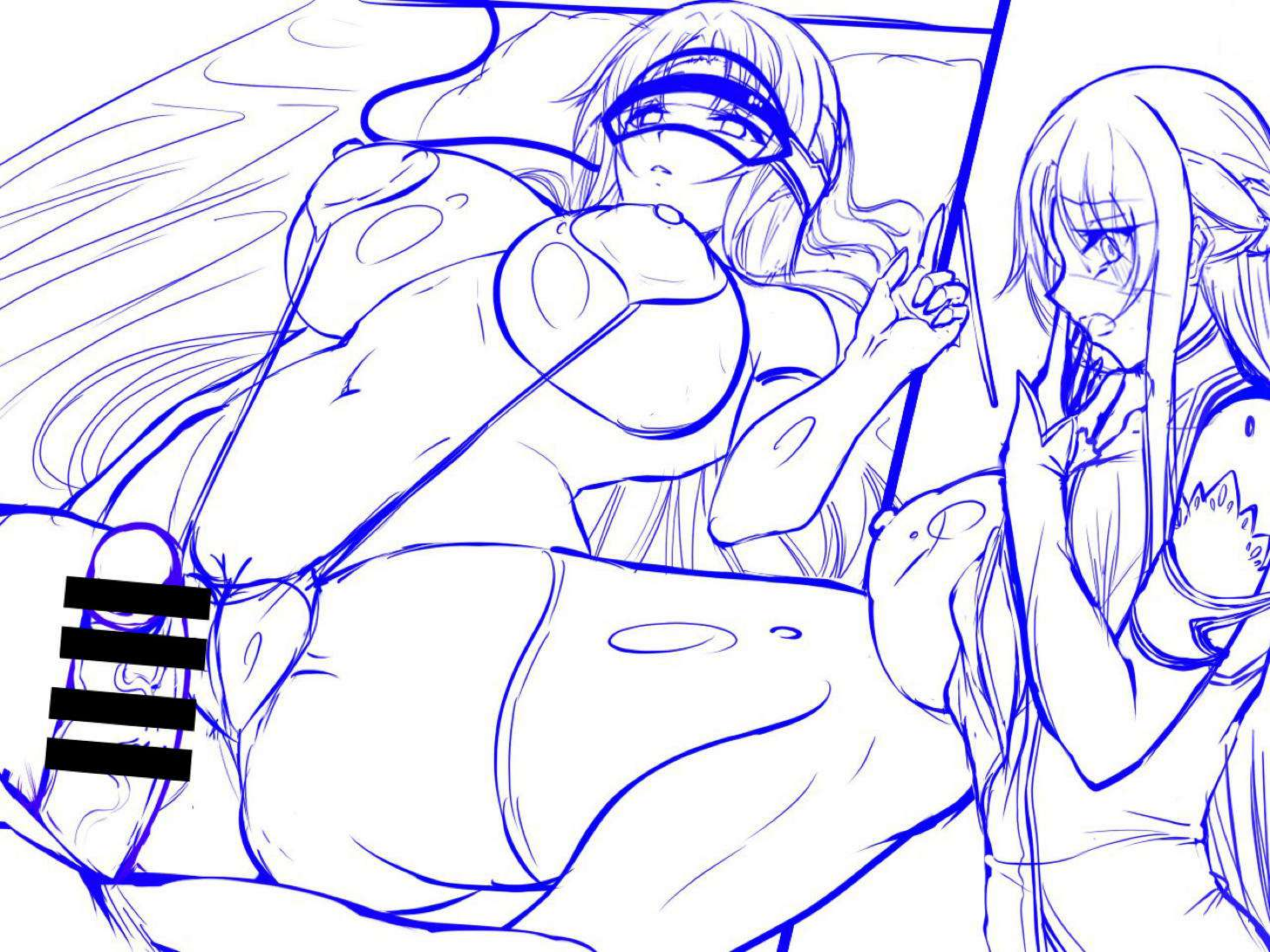




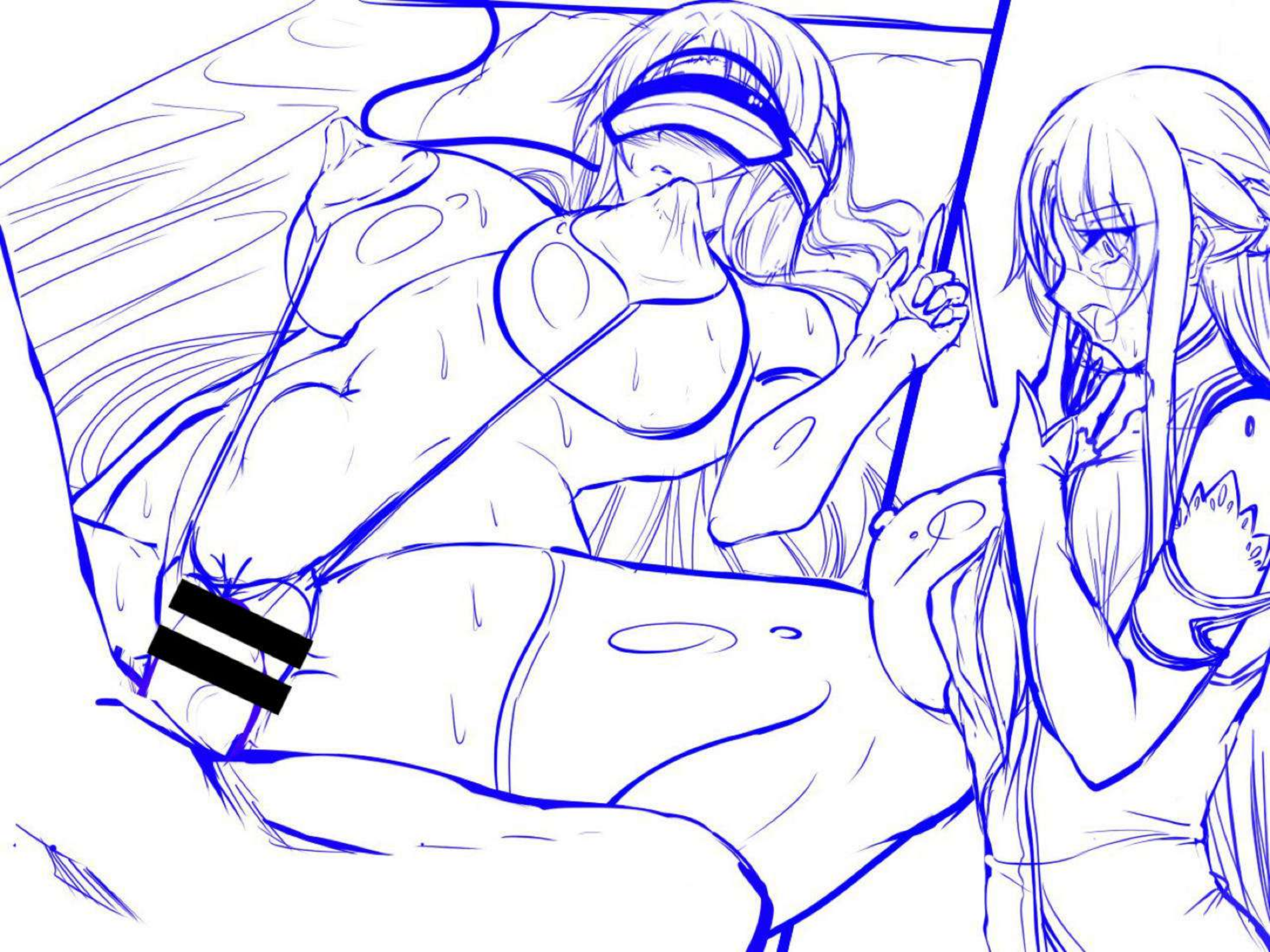




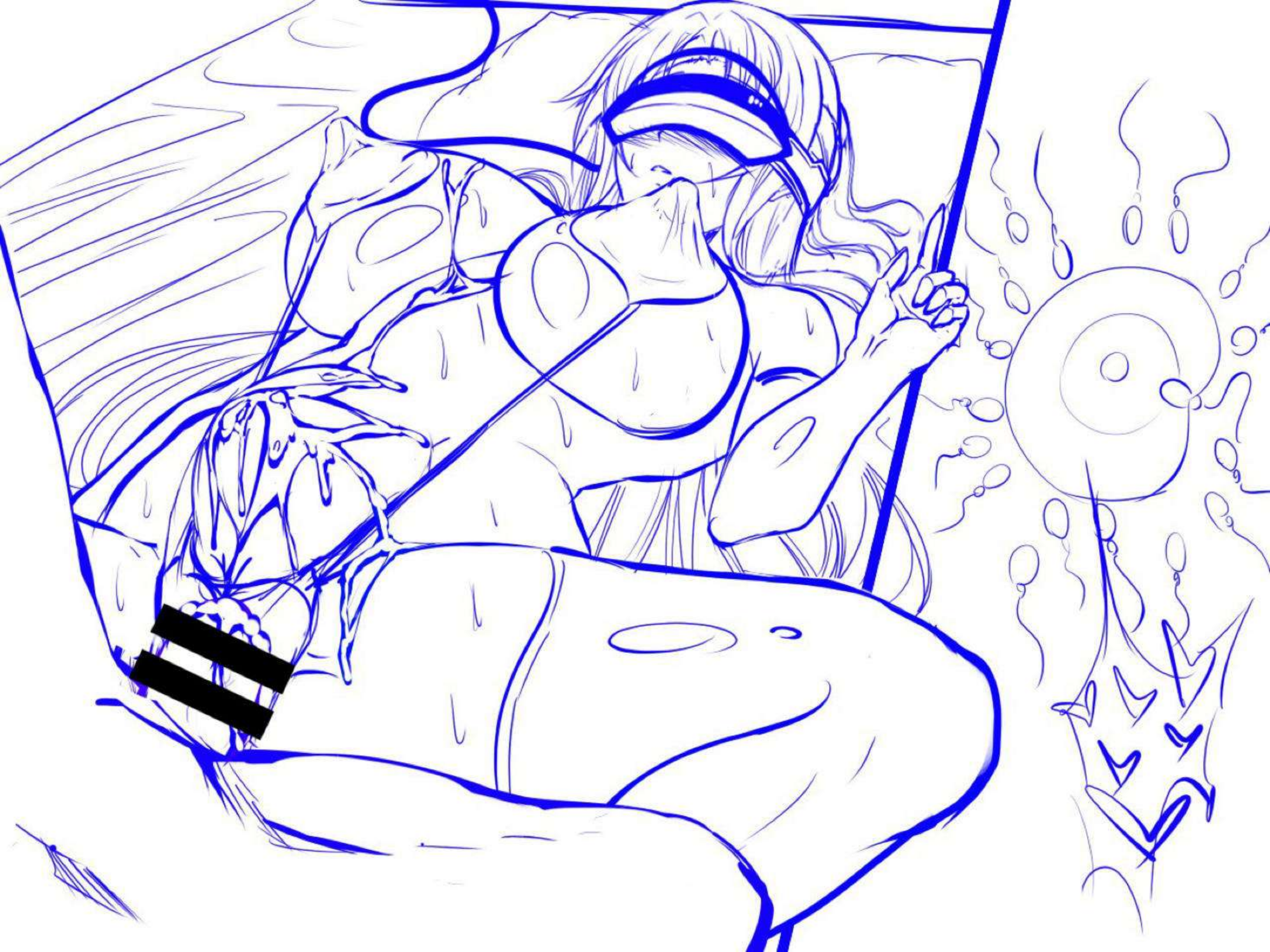




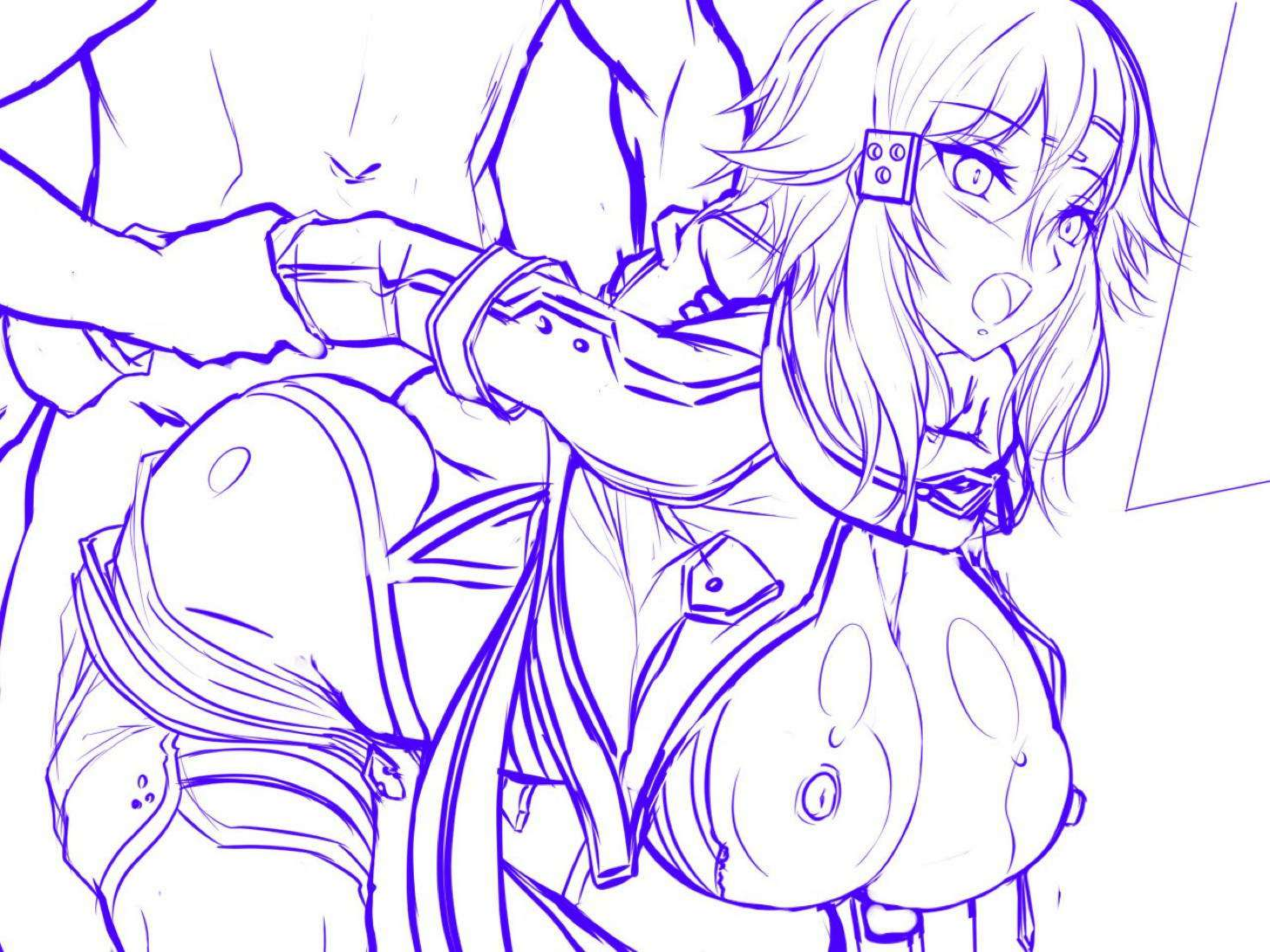
██████████  
██████████  
██████████  
██████████





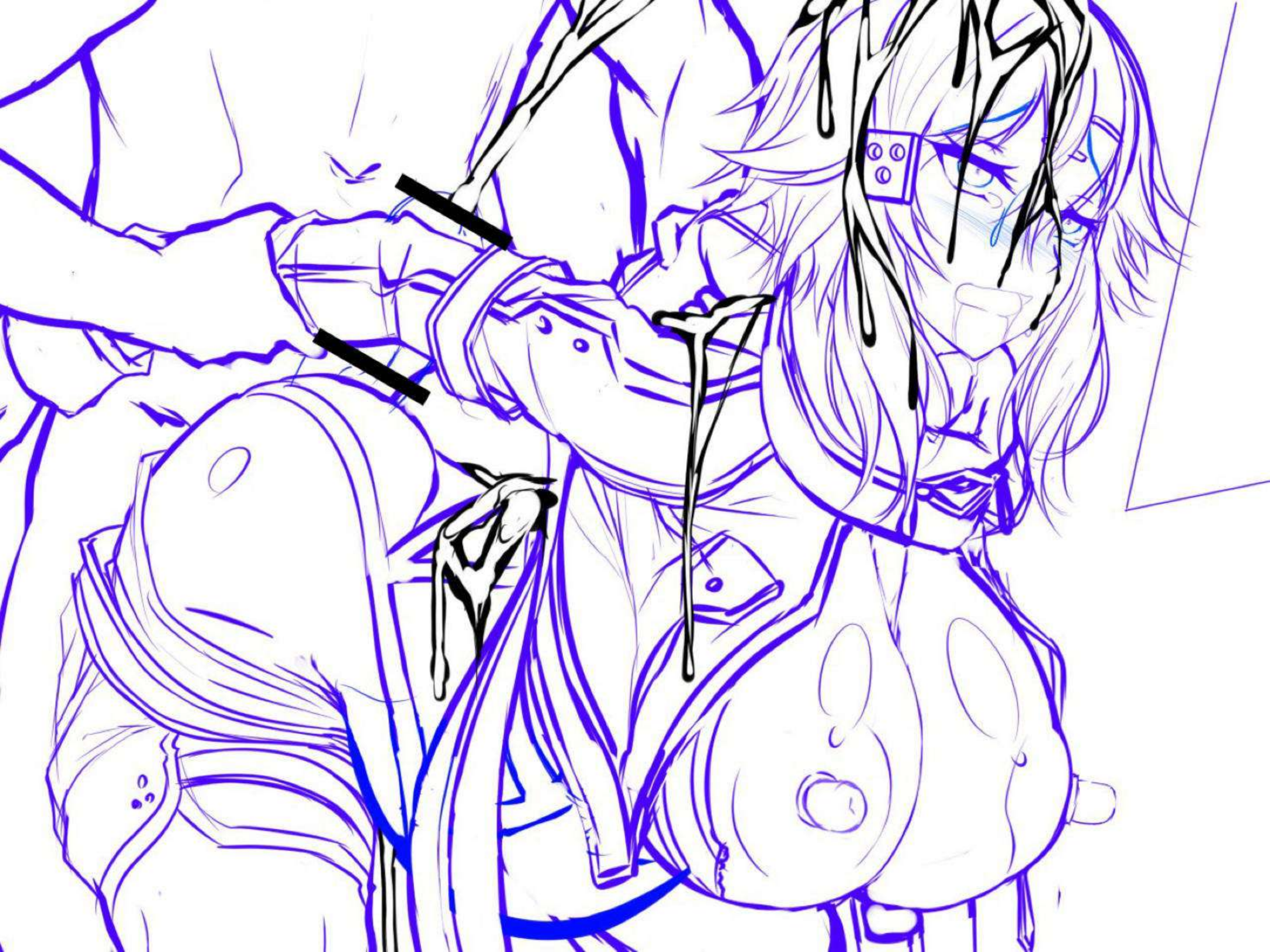




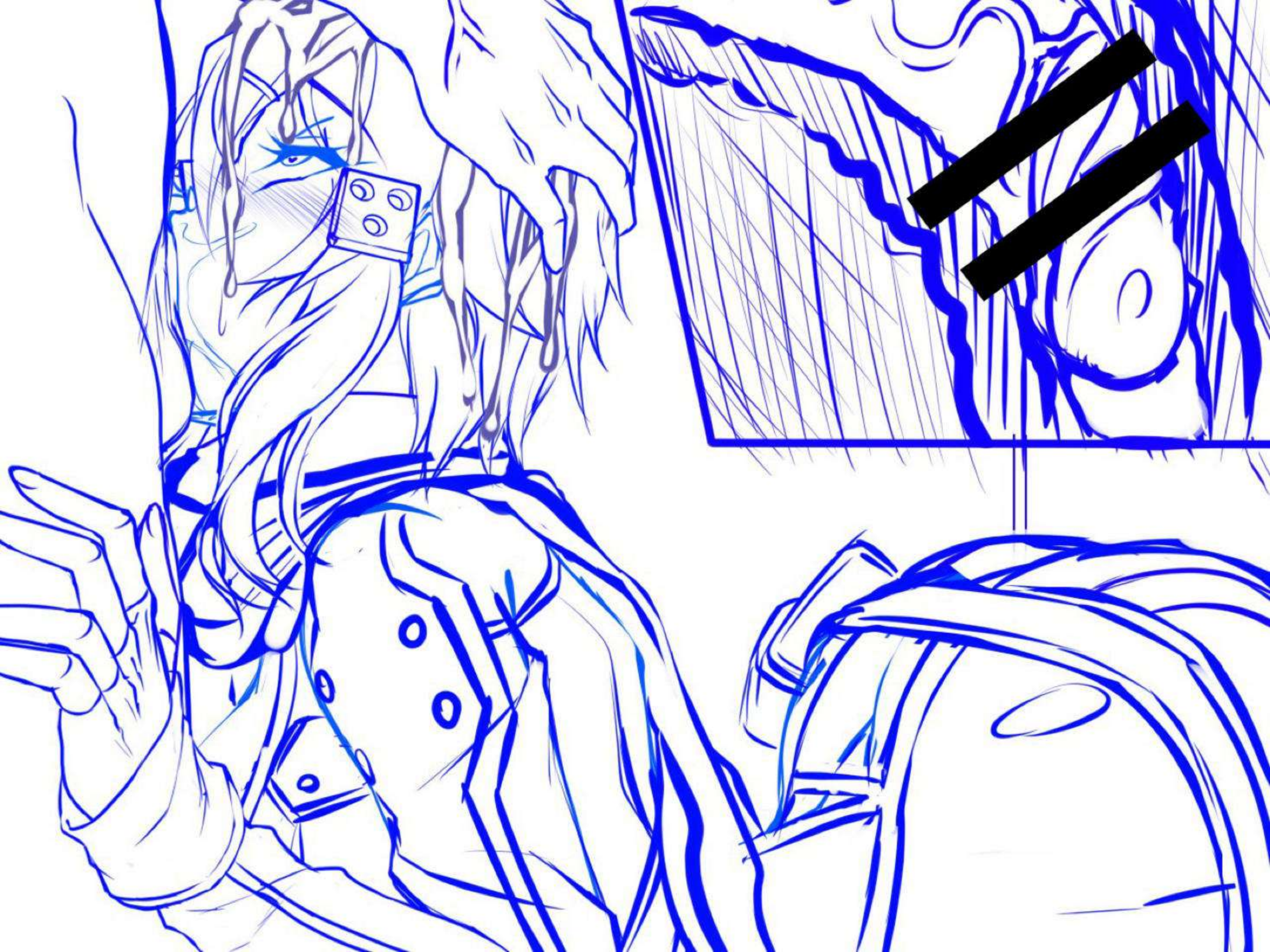


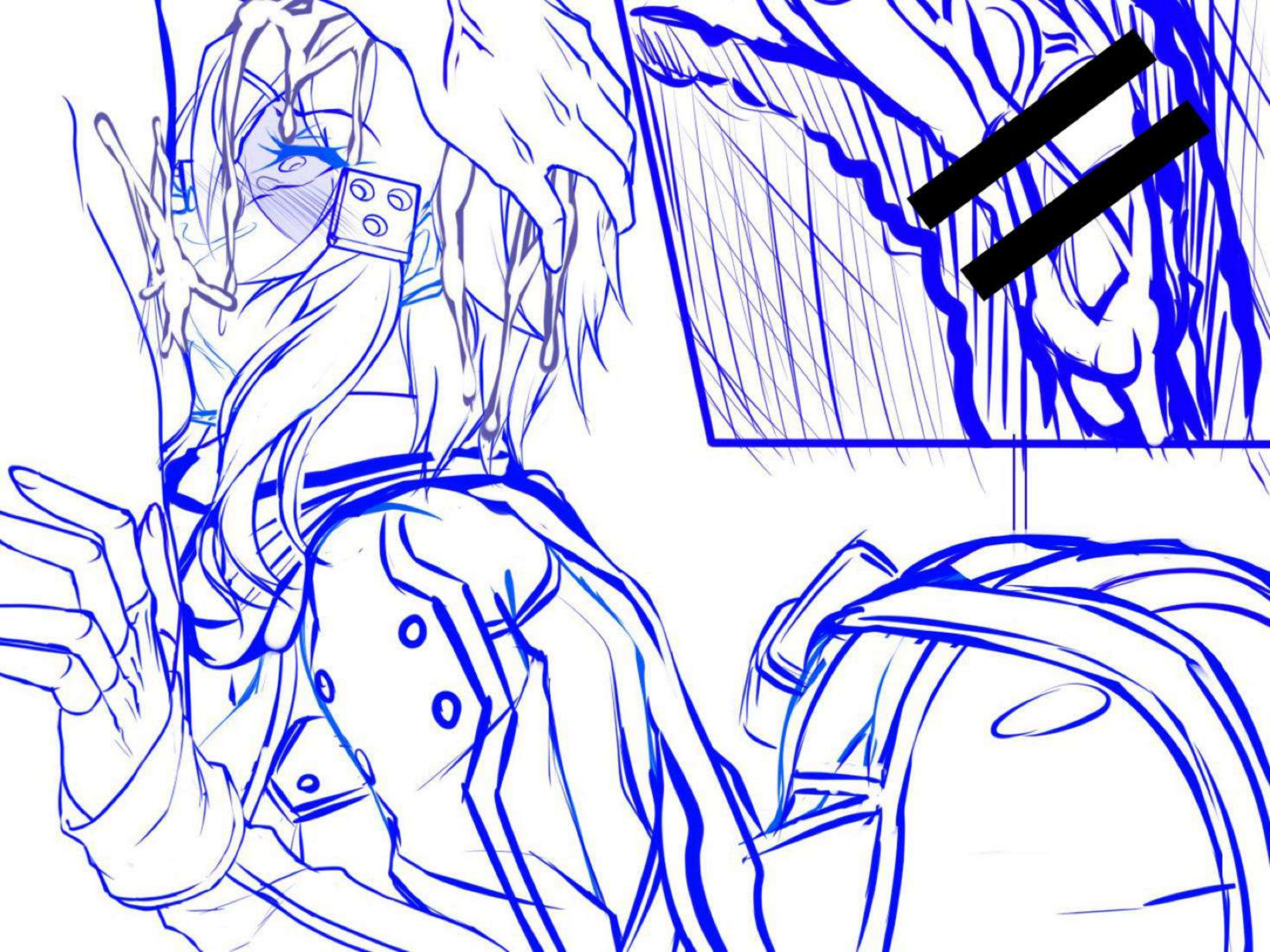


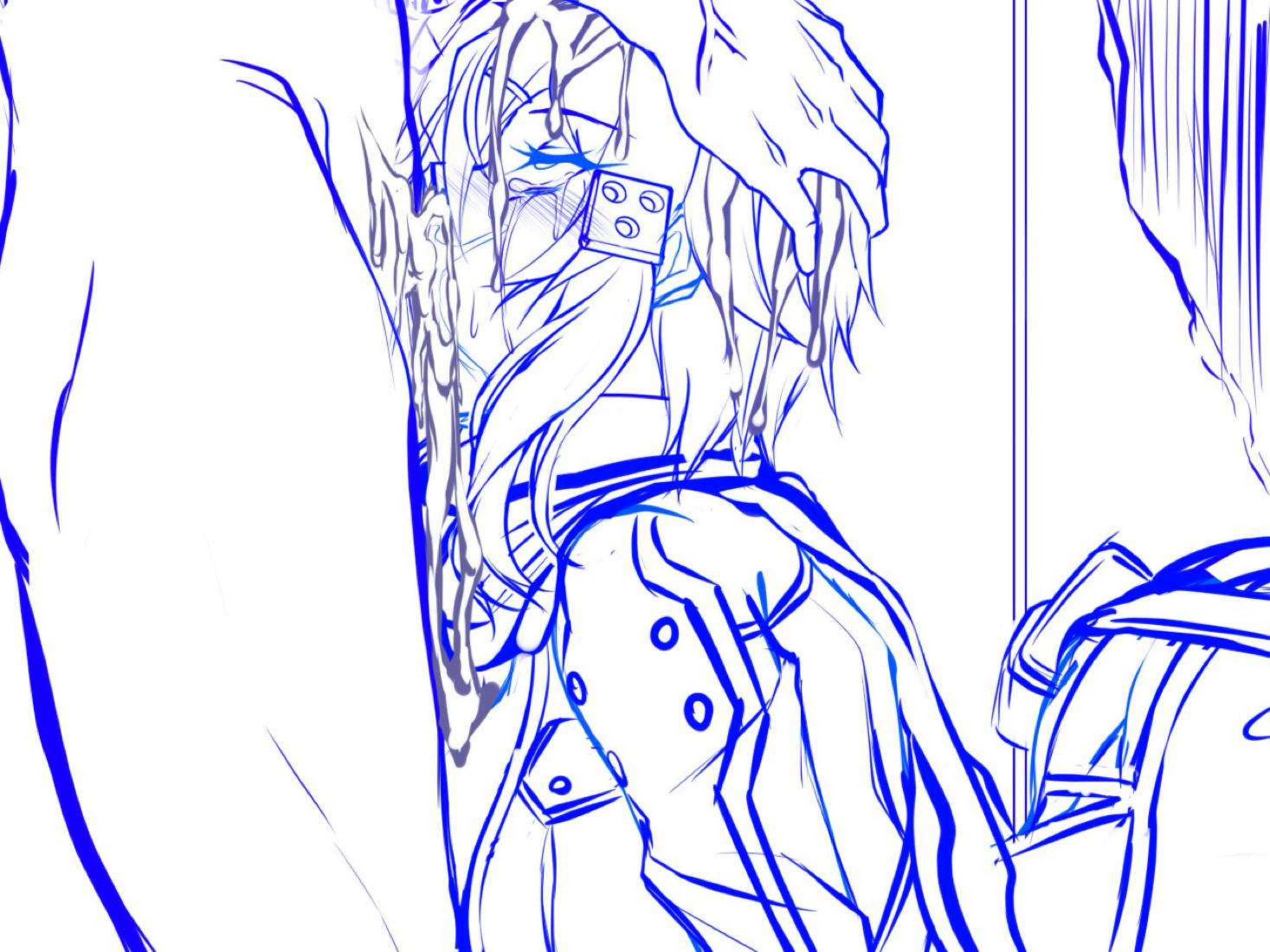




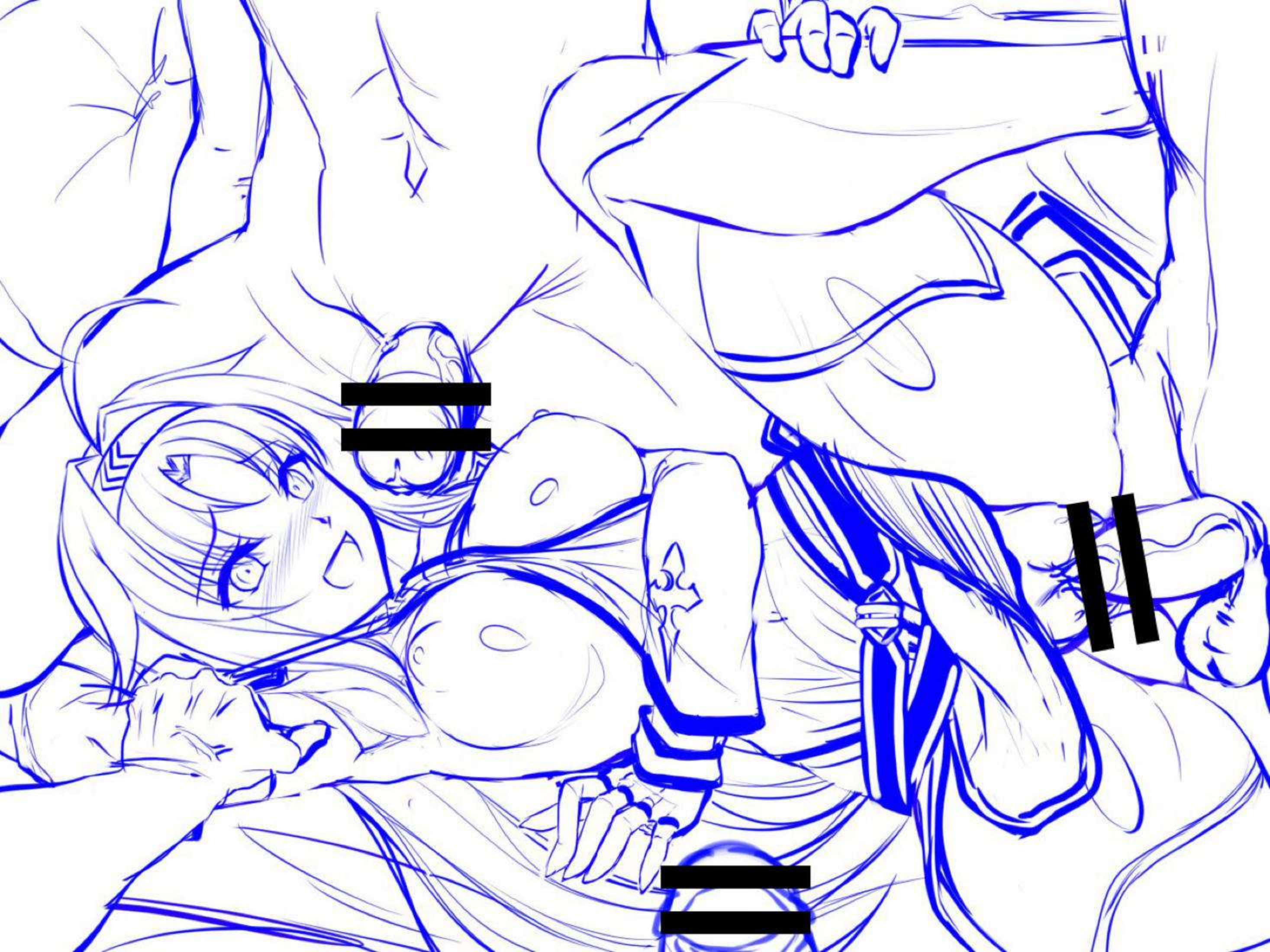




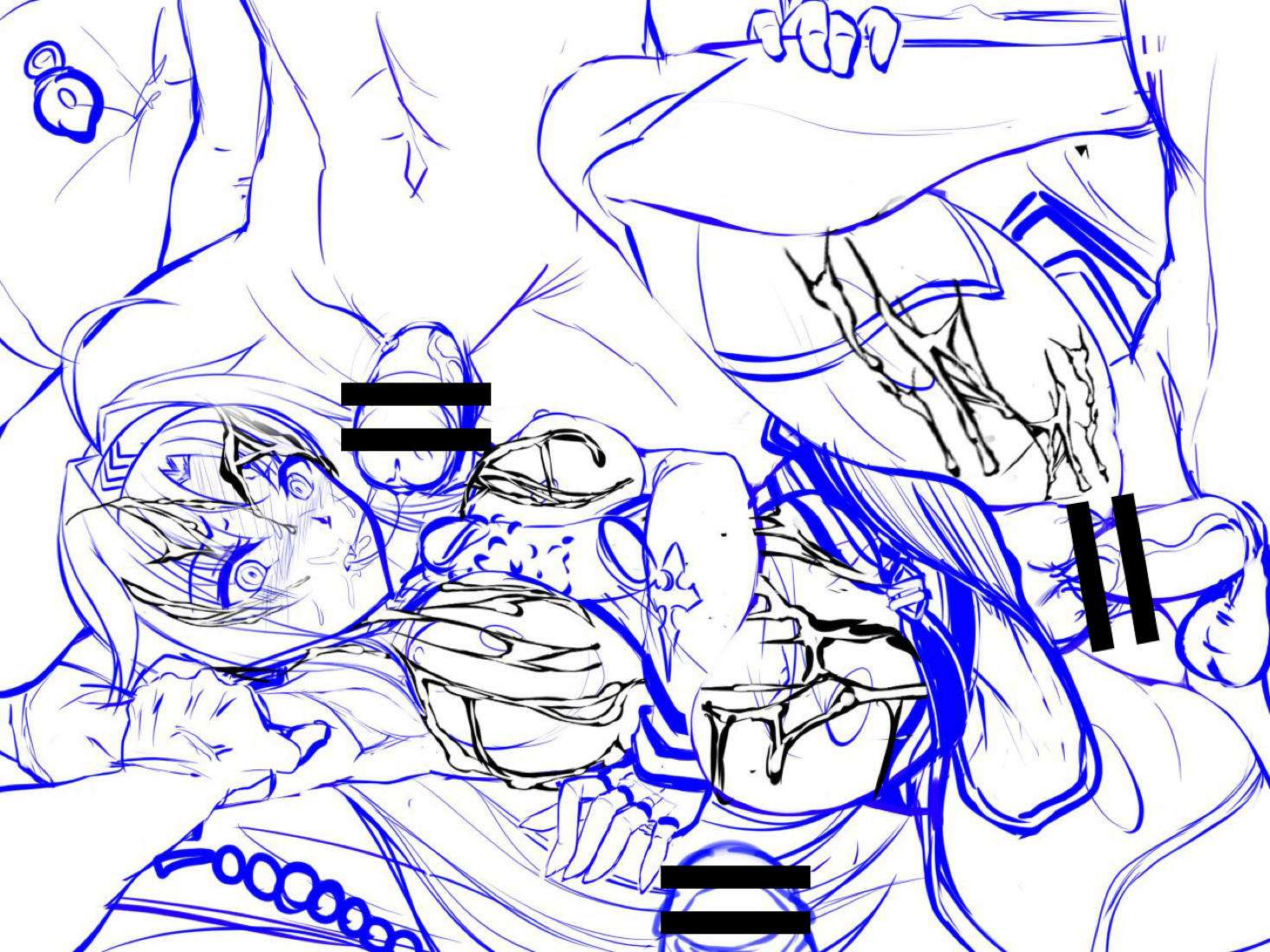


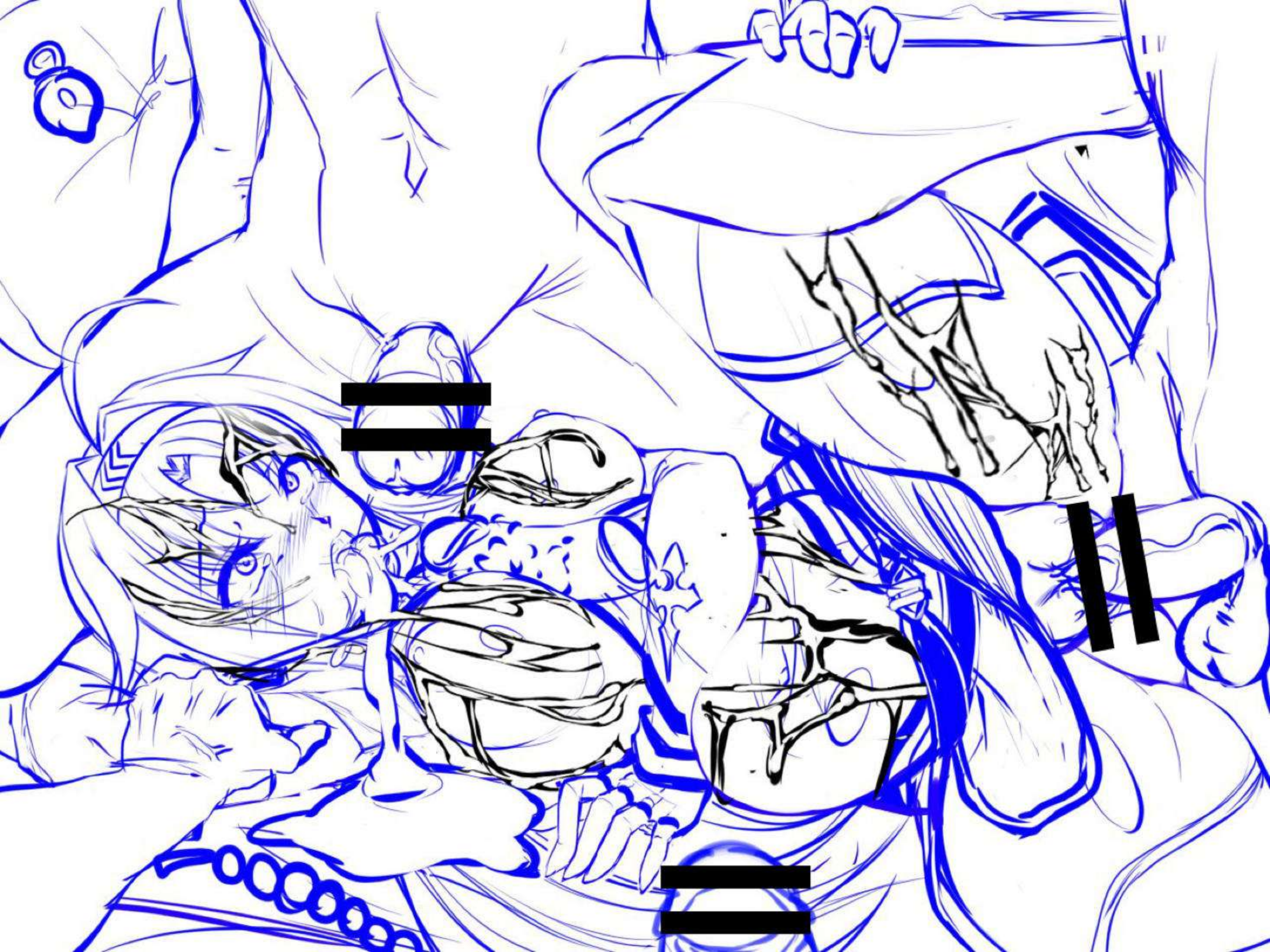


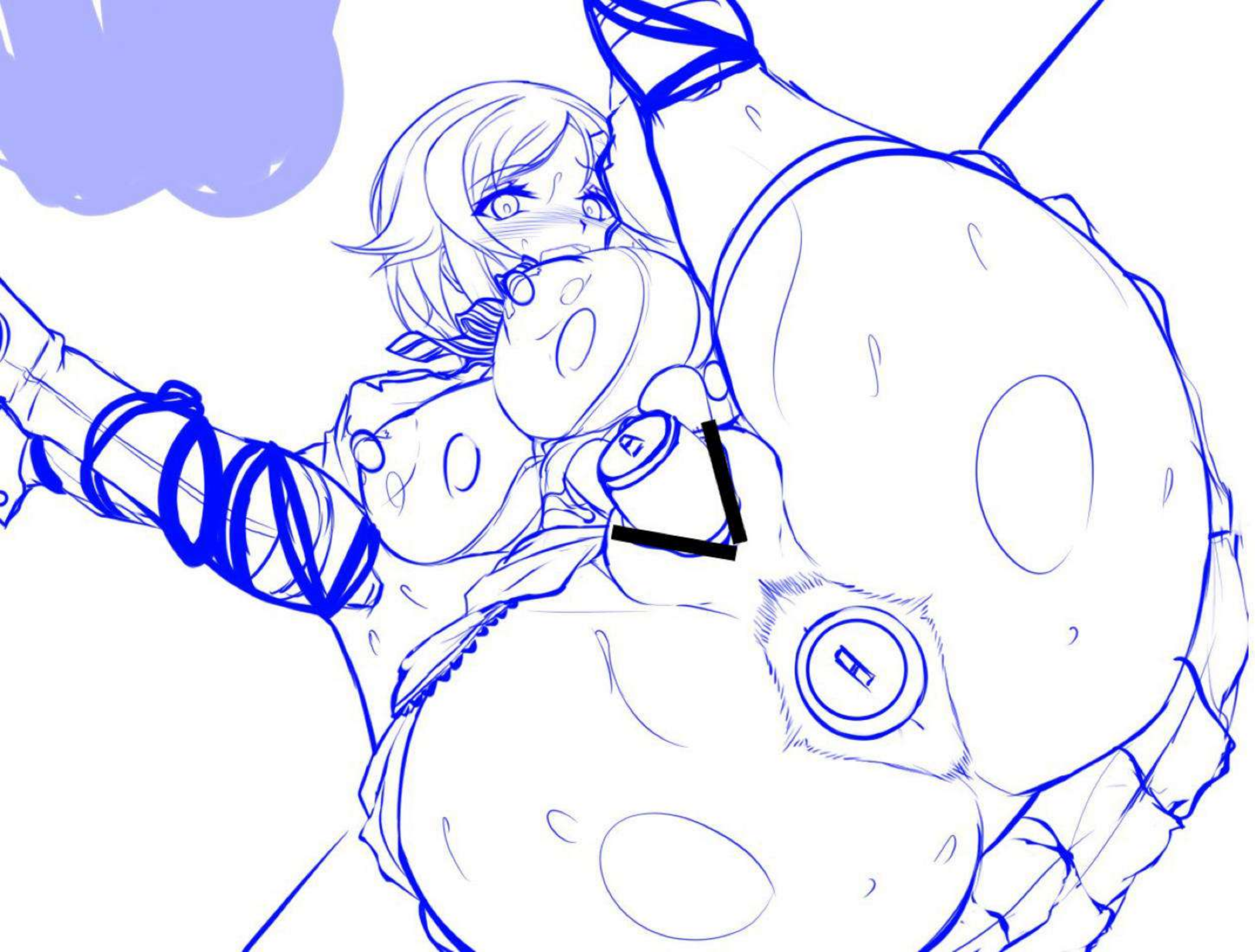


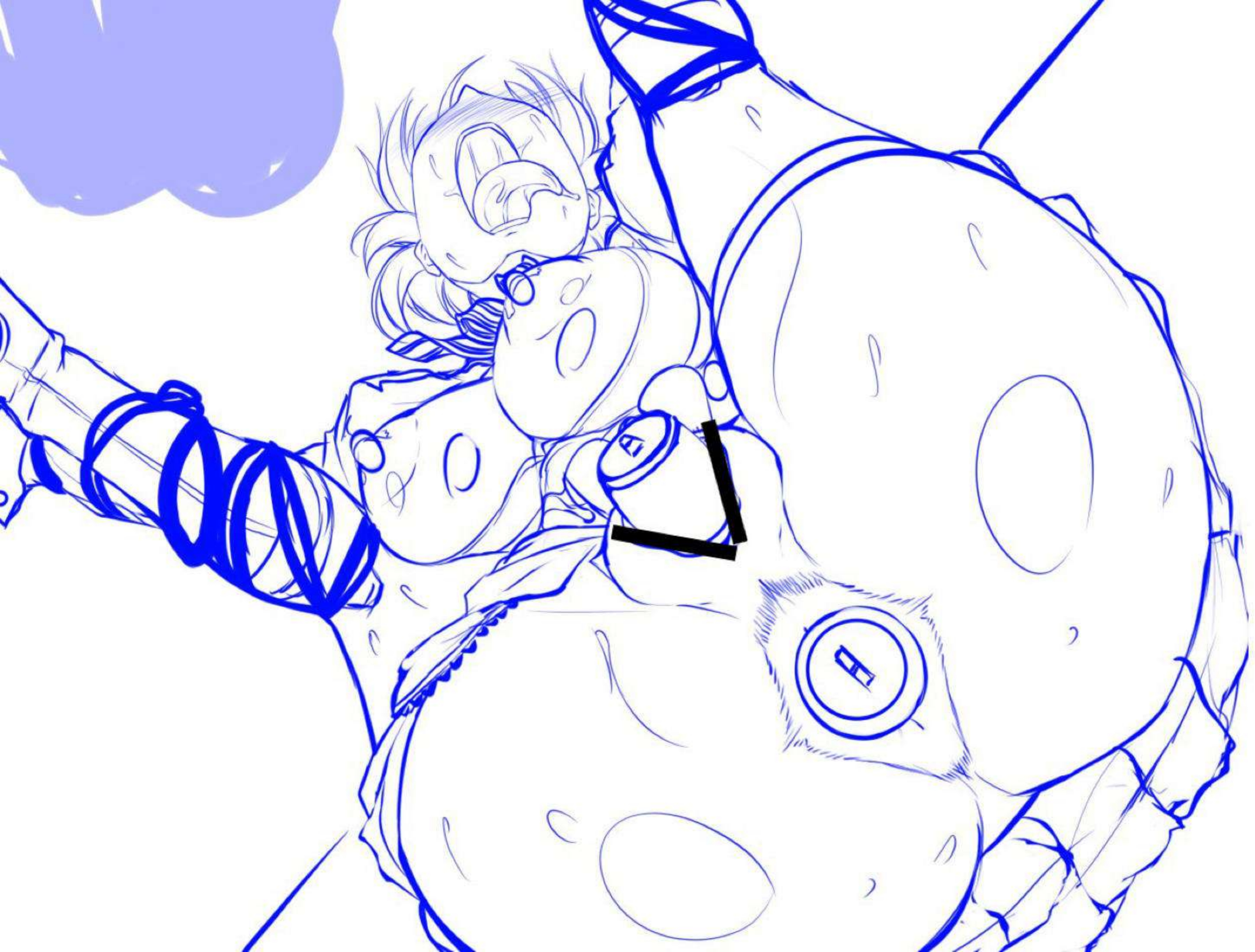


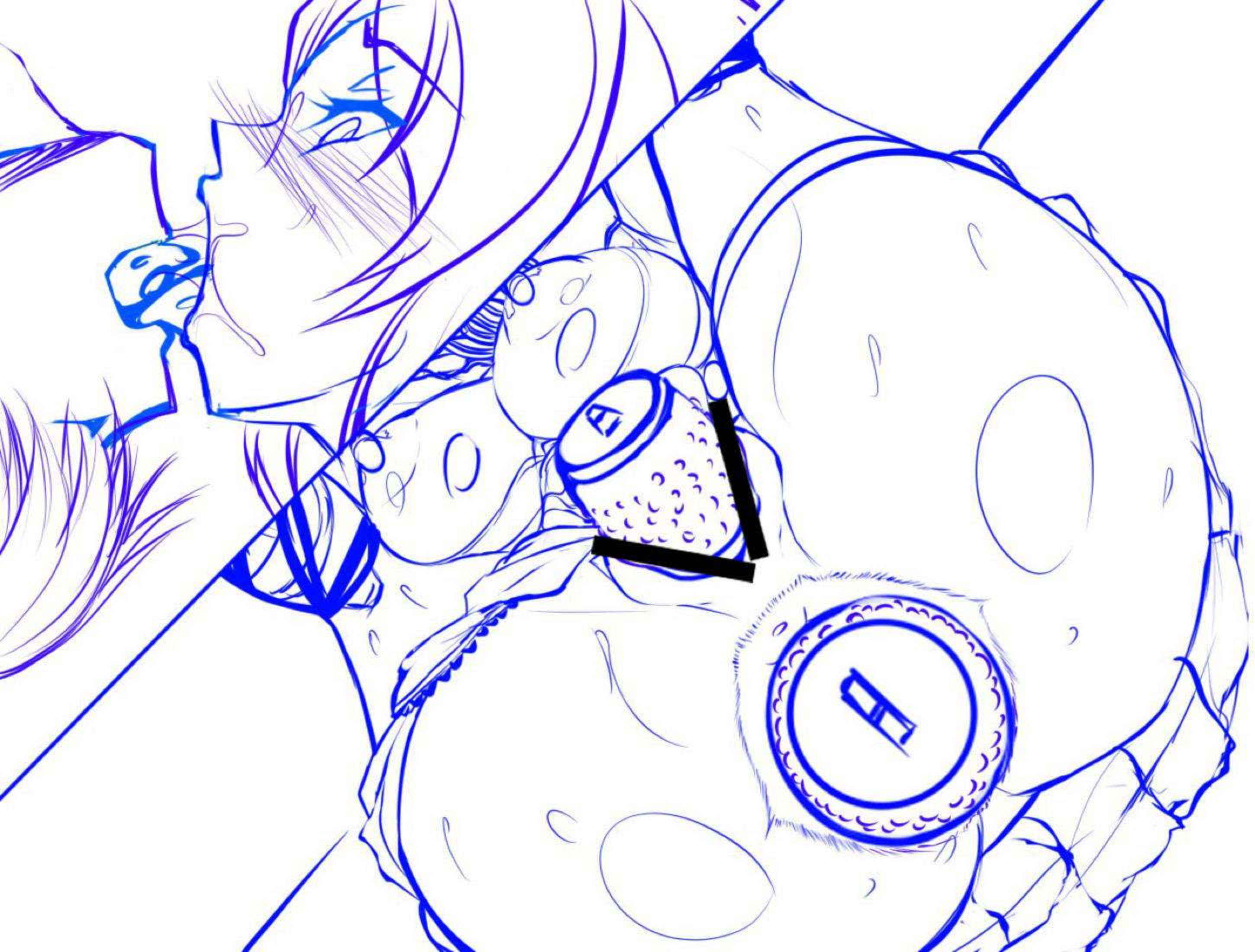


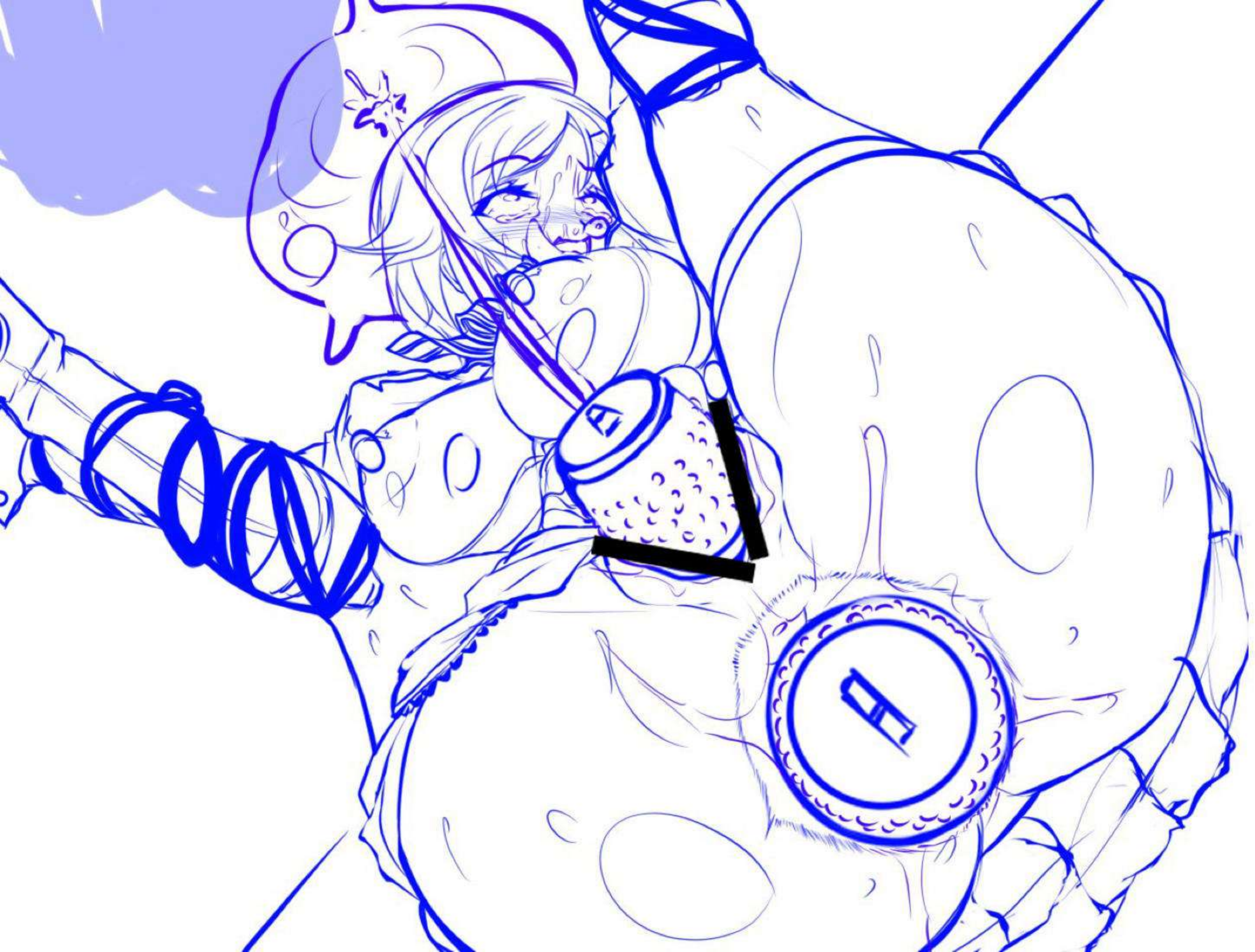






























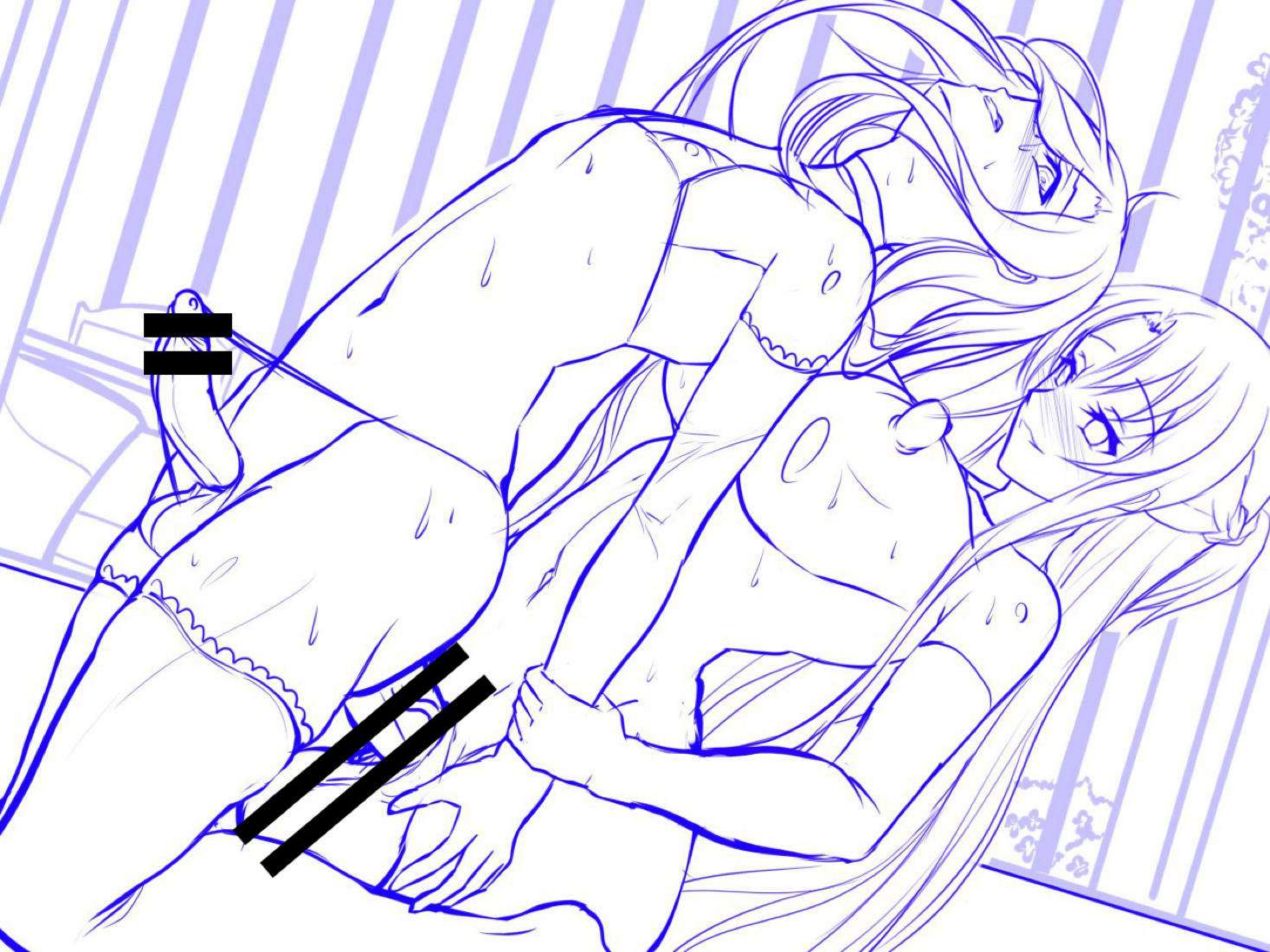


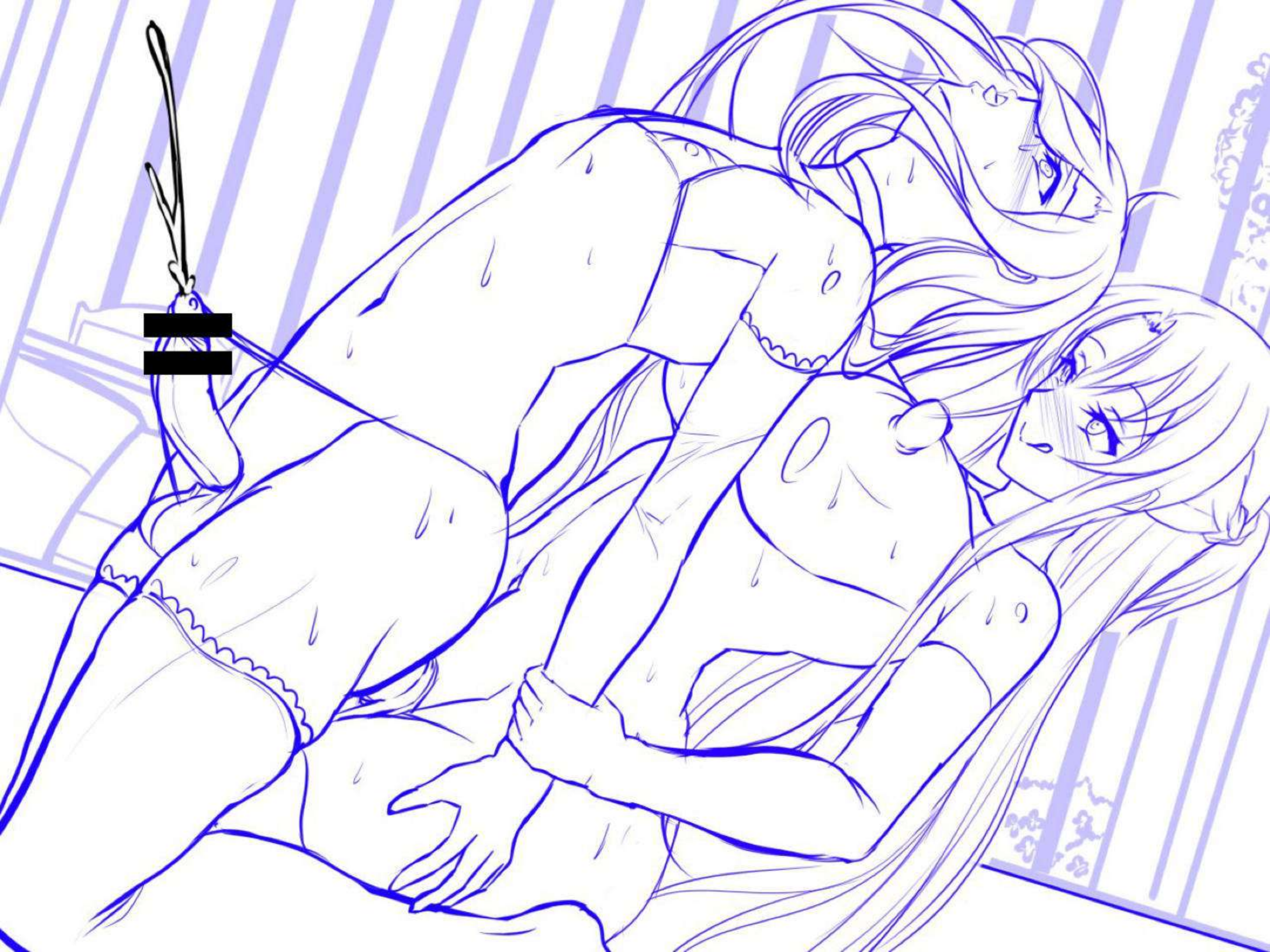










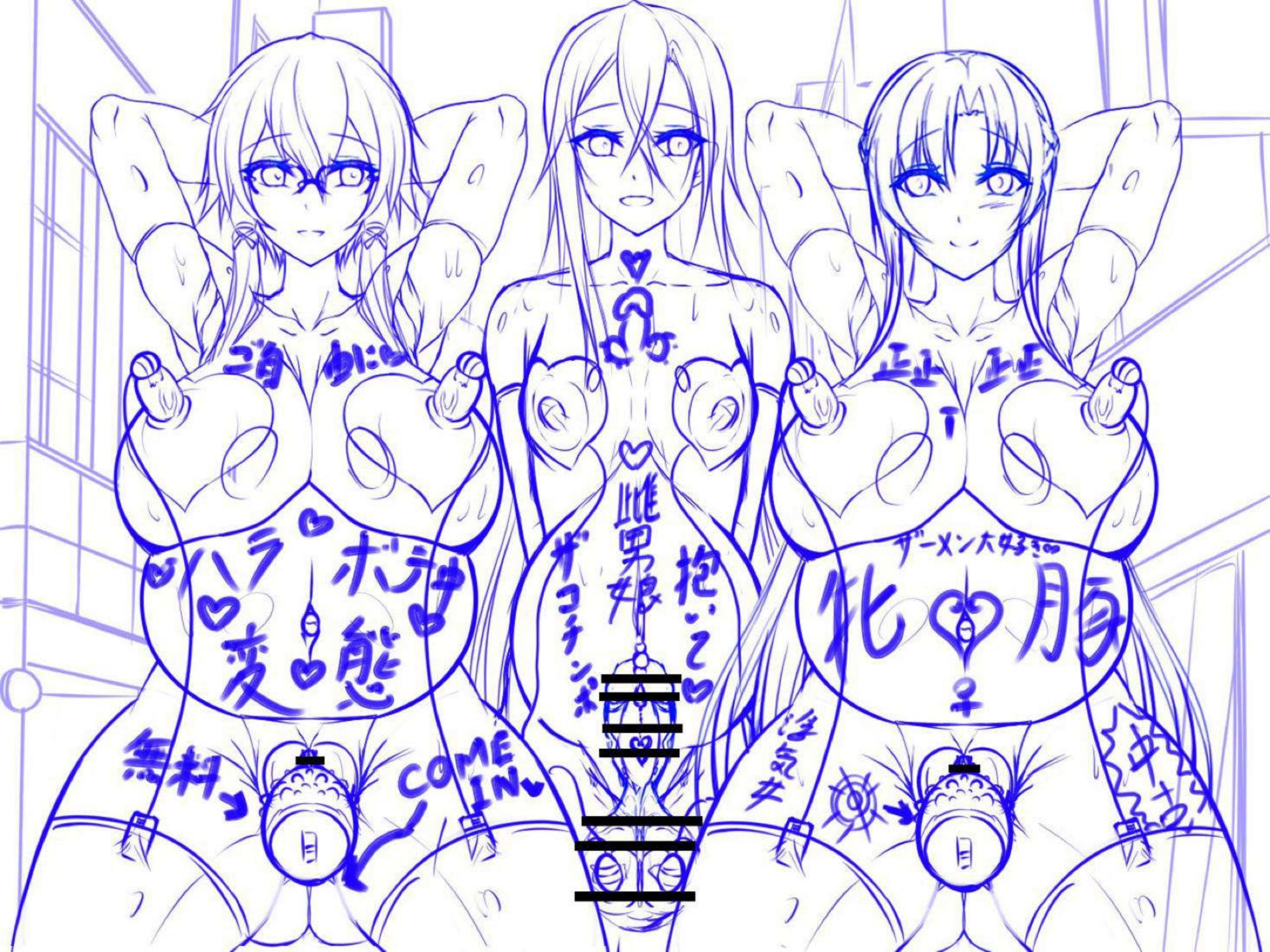












消かす

♡♡♡

正正正

♡ハラ♡ボク  
♡変♡態♡

♡雌男娘♡抱こす♡  
ザコチン

ザーメン大好き

化♡月身 ♀

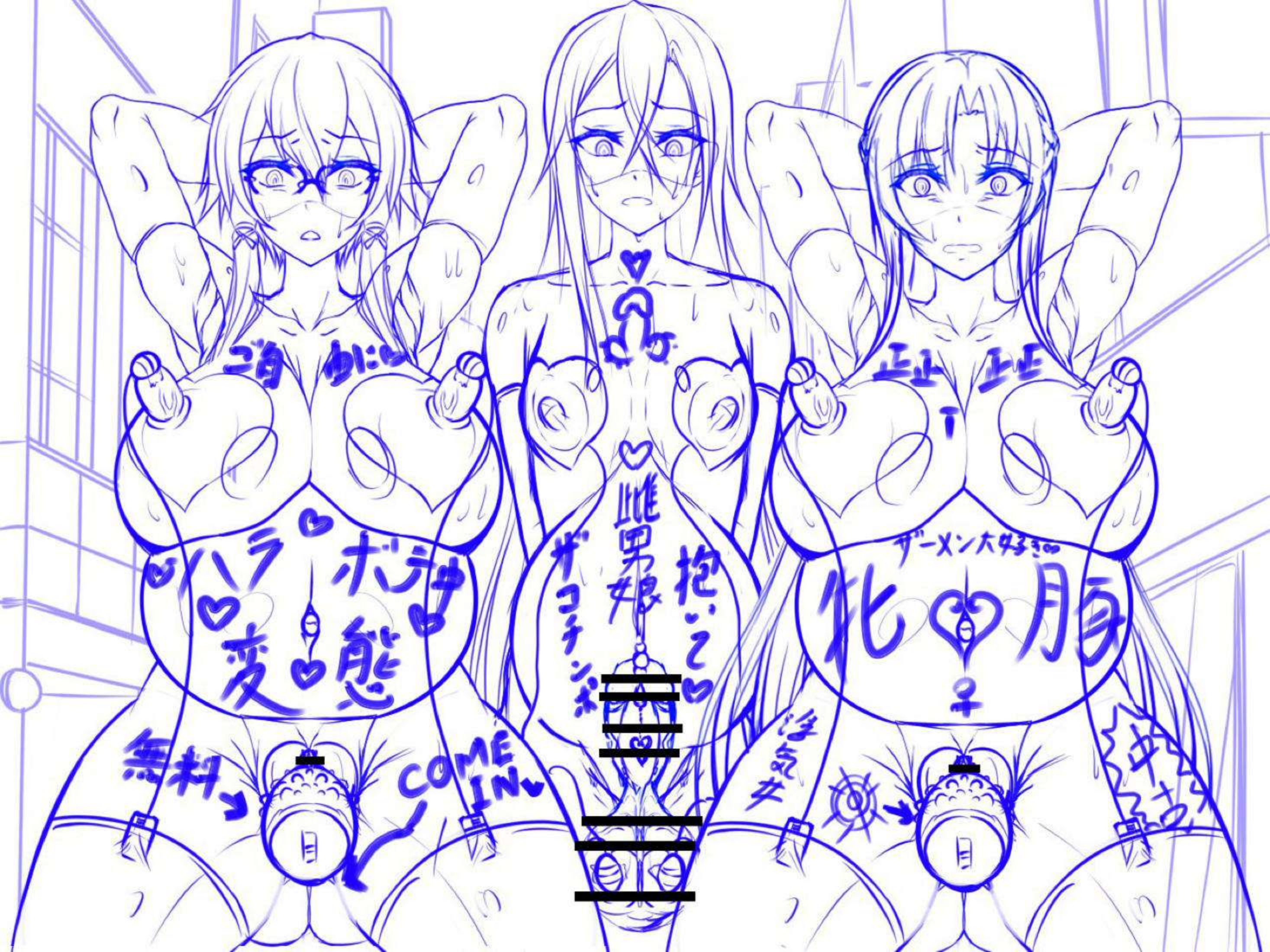
無料

COME IN

おっぱい

おっぱい

三三三



消かす

♡  
♡  
♡

正正 正正

♡ ハム ♡  
♡ ポテト ♡  
♡ 変態 ♡

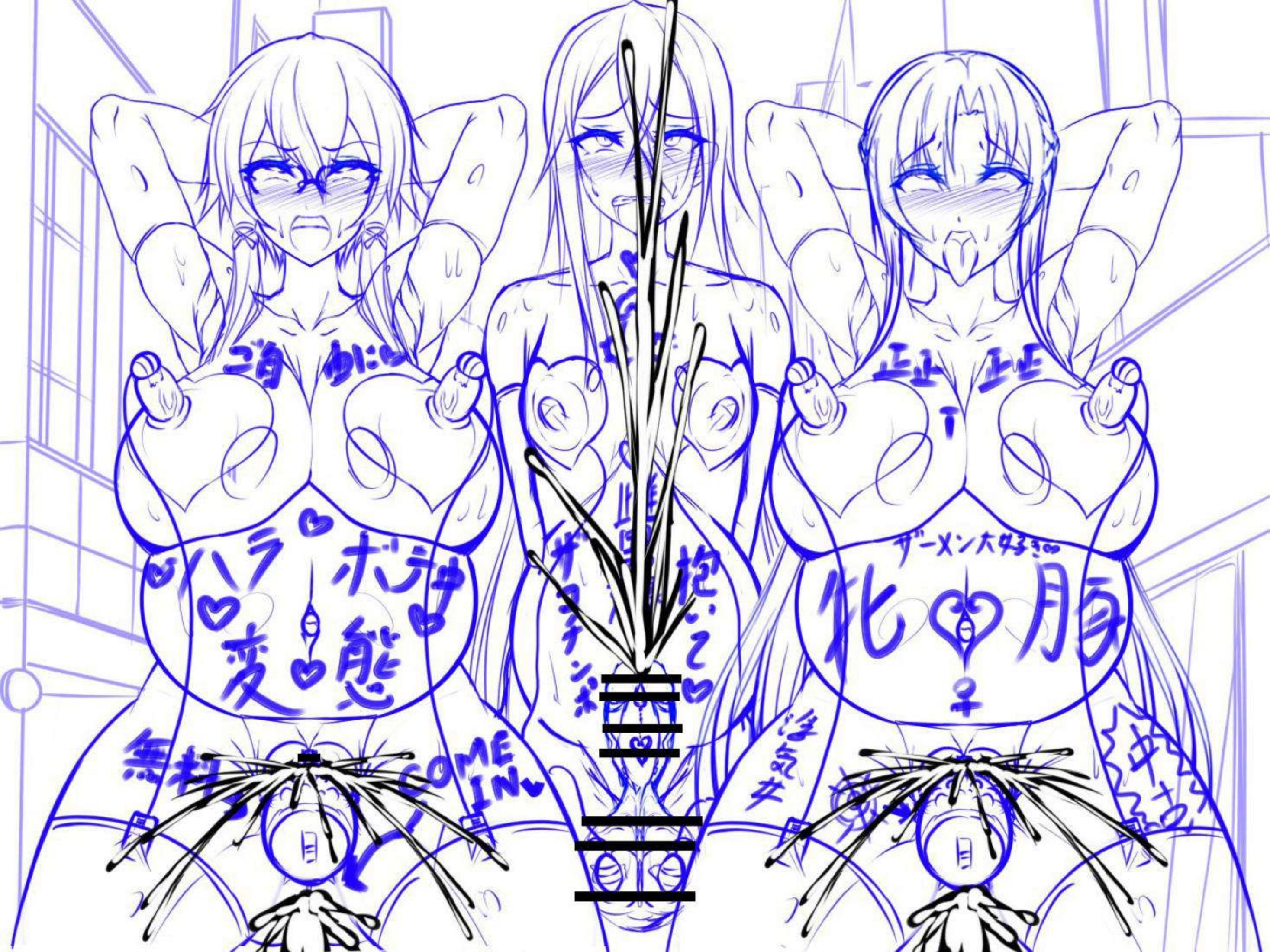
♡  
雌男娘  
抱っこ♡  
ザン大好き

ザン大好き  
化 ♡ 月  
♀

無料 ♪ COME IN ♪

女中  
♪ ♪

■■■■  
■■■■  
■■■■  
■■■■



消か

正正

ハラブ  
ボ  
変態

デーモン大好き  
化月

急料  
COME IN

中

